

ひとりごとダイアリー・アーカイブス
方言・米沢弁・米沢でしゃべらっちえきた言葉集
《な～ん》
おきたまのラジオマン編

〈はじめに〉

本米沢弁リストは、おきたまラジオNPOセンターのホームページに掲載されている“ひとりごとダイアリー”（執筆：おきたまのラジオマン）で取り上げた米沢弁や米沢でしゃべらっちえきた言葉を一覧にしたものです。（この連載は、2008年4月から始まりました）

米沢弁と言っても地域によって違います。そこで、“ひとりごとダイアリー”では、おきたまのラジオマンが聴いたり、しゃべってきたもの、あるいは知っている言葉のみを取り上げております。

なお、あとで加筆したものもあります。

●なえだべ・・・例題です。「なえだべ。おふろ、ながいごど～」。これは「どうしたの。お風呂に入ってから、長い時間経ったよ」という意味です。

「なえだべ」は「どうしたの」「どうかしたの」という意味です。

「なえだべ」は、例題のように、相手のことを心配している意味もありますが、こちらの思っていることとは違ったり、こちらの希望に反したりした場合にも言います。

「なえだべ、10分間でしゃべってけろ、とゆったべした。ほだげんど、おまえは30分もしゃべったべ」は「どうしたの。10分間で話してくれ、と言ったでしょう。それなのに、お前は30分も話したぞ」という意味です。

●なげる・・・例題です。「そのゴミ、なげでけろ」。これは「そのゴミ、捨ててください」という意味です。つまり、「なげる」は「捨てる」という意味です。

この「なげる」は、米沢だけでなく、北海道から東北にかけて、もしかすると、もっと広範囲に使われている言葉で、標準語とは言いませんが、それに近い言葉かな、とも思います。しかし、「なげる」イコール「捨てる」が通じない地域も広範囲にあり、「そのゴミ、なげて」と言ったら、自分にそのゴミが飛んできたという、信じられない事例もあるのです。

例題です。「このパソコン、なげんぞ」。これは「このパソコン、捨てるぞ」という意味です。古くなって、とても実用に耐えられなくなったパソコン。しかし当人は愛着があるのか、なかなか捨てません、そこで「このパソコン、なげんぞ」と言ったのでしょう。ただし、パソコンなどは、勝手に捨ててはいけません。

ゴミでも、不要になったものでも、簡単になげてはいけませんね。

●なして・・・例題です。「なして、けんかしたなよ」。これは「どうして、けんかしたの?」という意味です。

「なして」は「どうして」「なぜ」「なんで」という意味です。

「なして、けんかしたなよ」に対して「なしてだが、わがんね」は「どうして（けんかしたのか）わからない」という意味です。このように理由がわからない場合、「なしてだべ」（どうしてなんだろう）と言うこともあります。

●なじょしった・・・例題です。「おまえ、なじょしった」。これは「お前、どうしていたか？」「お前、どのように過ごしていたの？」あるいは「お前、どうしているの？」「お前、どのように過ごしているの？」という意味です。

例題は、しばらく会っていなかった者同士が再会した時に発したセリフです。しかも、ある事情があって、その後の様子を聞く時に「おまえ、なじょしった」と聞くことになります。

特に事情があった場合は、前回会ってからの時間があまり経っていなくても「おまえ、なじょしった」と聞きます。

なにも事情がなくても長期間会っていない場合「おまえ、なじょしった」と聞きます。

なお、「なじょしった」という言い方は「どうしていた」という過去形のように感じますが、「どうしている」という現在の様子を聞いている意味も含まれます。

●なじょすっぺ・なじょすんべ・・・「なじょすっぺ・なじょすんべ」には、ある課題や問題について対策や対処・方策を考える時に発する言葉で、「どうする？」と問いかける意味、あるいは「どうしようか」と投げかける意味があります。

●なじょだ・・・「どうですか？」という意味です。特に「なじょだ」は体調を聞く時に使う言葉です。例題です。風邪を引いた人に「なじょだ」と言えば、風邪を引いた人は「まだ、なおんね」（まだ治りません）とか「なおった」（治りました）と答えます。

●なじょだっし・・・いくつかの例題で説明します。

例題1です。私がある資格試験を受けたとします。試験が終わりました。合格するか気になる私は試験結果を聞きます。その時に言うセリフが「なじょだっし」。答えは「まだ、わがんね」（試験が終わったばかりなので）まだ、わかりません。この「なじょだっし」は、「（試験の結果は）どうですか？（合格できますか？）」という意味です。

例題2です。私は初めて料理を作ったとします。美味しくできたでしょうか、試食してもらいます。そして、私は試食した後に聞きます。その時に言うセリフが「なじょだっし」。答えは「もう少し、しょっぱい方が良い」。この「なじょだっし」は、「（料理の味は）どうですか？（美味しいですか？）」という意味です。

例題3です。2011年3月の東日本大震災と原発事故によって、福島県から米沢へたくさんの方が避難されました。その時に気になったのが、避難者の米沢での生活です。そこで言うセリフが「なじょだっし」。この「なじょだっし」は、「（米沢の生活は）どうですか？（慣れましたか？）（なにか問題はありますか？）」という意味です。

例題4です。Aさんが車を買いました。BさんがAさんへ「なじょだっし」と尋ねました。この「なじょだっし」は、「車の調子は？」「運転しやすいですか？」「燃費は？」といった意味を含めての「（新しい車は）どうですか？」という意味です。

「なじょだっし」とは、「どうですか?」「どうでしょう?」「いかがですか?」と尋ねる時に使う言葉ですが、ここまでの4つの例題で示したように、何かを行ったことに対して、結果を尋ねる場合や、これまでと違った状態になった時に、その状態について尋ねる場合に使う言葉です。ですから、例題3と違って、これまで米沢に住んでいる人に対して「米沢の生活はなじょだっし」とは言いません。

さらに、例題5です。農家の人に、今年の稲の作柄について尋ねる時にも「なじょだっし」。

●～なっし・・・「おしょうしな」（「ありがとう」の意味）では、3段活用があることをご紹介します。すなわち「おしょうし」「おしょうしな～」「おしょうしなっし」の3段です。「おしょうしなっし」が最も丁寧な言い方です。

この3段活用は「おしょうしな」だけではありません。

例えば、「うまいごど」「うまいごどな～」「うまいごどなっし」です。「美味しい」という意味ですが、「うまいごどなっし」が「美味しい」ことを最も強調した言い方です。

このように、3段活用はいろいろな場面で使えます。

3段活用は、自分の思いを伝える手段であります。

●なにしてけつかる・・・「何をしているんだ」という意味です。そこには「すぐにやめなさい」という意味も含まれます。例題です。誰かが自分の畑に入り、サクランボの実をもいで食べています。そこで言うセリフが「なにしてけつかる」。これは、今やっている行為（勝手に他人のサクランボをもいで食べる）を途中でやめさせるための「なにしてけつかる」です。

もうひとつは「なんていうことをしてくれたんだ」という意味です。これは、結果として取り返しの付かないことになった場合です。例題です。誰かが自分の畑に入り、サクランボの木を根本から切ってしまったとします。そこで言うセリフが「なにしてけつかる」。これは、結果として取り返しの付かない行為（勝手に他人のサクランボの木を根本から切った）に対してのセリフです。

でも、少なくとも私は、最近「なにしてけつかる」を聞くことはありません。その昔、私より一世代前の人が言っていた記憶がありますので、ここにご紹介しましたが、今は死語になりつつあります。

●なんだず・・・「なんですか」「なんだ」という意味です。

例題です。会社です。部下が上司に聞きたいことがあります。そこで部下が「あの～・・・」。それに対して上司は「なんだず!」。これには「なんだ」のほかに、「今忙しいんだ。急用でないなら、あとにしてくれ」とか「今忙しいんだ。邪魔しないで」というニュアンスも含むことがあります。

例題です。世の中には「ちょっかいを出す」という言葉があります。横やりを入れたり、相手が望まないことで余計な世話を焼いたりすることです。ちょっかいを出されて言うセリフは「なんだず!」。

例題です。小さな子どもが体当たりしました。体当たりされた大人の中には「なんだず!」と言う人もいるかもしれませんが、小さな子どもが大人に体当たりするのは当たり前です。

●なんね・・・例題です。「・・・さなんね」「・・・しなんね」あるいは「・・・しんなんね」。これは「・・・しなければならぬ」という意味です。

さらに具体的例題をご紹介します。

イベントをします。でも、参加者がなかなか集まりません。そこで出てくるセリフが「人をあつめなんね」（人・参加者を集めなければならぬ）。

お家ではお米が無くなってきました。そこで出てくるセリフが「米、かわなんね」（米を買わなければならぬ）。

さらに例題です。「雪下ろし、さなんね（しなんね）」。これは「雪下ろし（を）しなければならぬ」という意味です。この「雪下ろし、さなんね（しなんね）」には、「雪下ろし、しなければならぬな～。それでは、がんばってやるか」と自分を奮い立たせる、自分を追い込むようなニュアンスもあれば、「雪下ろし、しなければならぬよ（ぞ）」と相手に対して雪下ろしを促す気持ちで伝える意味もあります。

「だがしや楽校の報告、早く書がなんね」は私が自分に対して「早く書かなければならぬぞ」とプレッシャーをかけています。

子どもに「勉強、さなんねぞ（しなんねぞ）」とばかり言う親は、子どもに嫌われます。

私も何気なく使っていた「なんね」表現。でも、大阪の人には通じませんでした。

●なんぼ・・・例題です。お客さんが店に入ってきました。そして、商品を指さし、言ったセリフは「これ、なんぼ」。これは「これ、いくら（ですか）？」という意味です。つまり、商品の値段を聞いているセリフです。

「なんぼ」とは「いくら」という意味で、値段を聞く時に使う言葉です。

「なんぼだべ」あるいは「なんぼが」とは「いくらですか」あるいは「いくらか」という意味です。また、「なんぼ、すっぺ」とは「いくらしますか」という意味です。いずれも、値段を聞いているセリフです。

●なんぼなんだって・・・例題です。夜です。節電です。それで家族が明かりを全部消します。私は仕事中です。全部消されたのでは仕事できません。それで言うセリフは「なんぼなんだって、みな消さなくてもいいべ」。これは「いくらなんでも、全部消さなくてもいいだろう」という意味です。さらに詳しく言えば、「節電だからと言って、いくらなんでも、全部消さなくてもいいだろう」となります。これは、「いくら節電だからと言っても、全部消さなくてもいいだろう」と言い換えることもできます。

「なんぼなんだって」は「いくらなんでも」という意味です。

常識的に考えて、「そこまでやることはないだろう」「そこまではする必要はないだろう」「それはやりすぎだろう」と思った時に、「なんぼなんだって」と言います。

●にしゃ・・・これも方言・米沢弁なのでしょうが、厳密には米沢の一部の地域でしか言わない言葉のようです。しかも、汚い言葉・悪い言葉とまで言われた言葉でもあります。

私がこの言葉を知ったのは、中学校に入ってからです。米沢では中学校は小学校より学区が広

くなるからです。中学校では「にしゃ」と言うと「そがなわい言葉ゆうな！」（そんな悪い言葉は言わないこと）と叱られていたものです。

「にしゃ」とは「お前」を意味する言葉です。

例題です。「にしゃ、どっから来たんだ」。これは「お前、どこから来たのだ」という意味です。これをさらに解説しますと「お前はどこに住んでいるのか」とか「どこで生まれたのか（出身地を聞く）」という意味が強いです。ここに微妙な意味合いが含まれています。「どごさ、すんでんなよ」（どこに住んでいるの）と言わないのは、どうしてなのでしょう。

本来、言葉に良い悪いはないと思うのですが・・・。

「にしゃ」は「やばい」と同じかもしれません。「やばい」は「(状況・物事に対して) まずい(うまくいかない)」「あぶない」「危険」という意味ですが、汚い言葉、悪い言葉というニュアンスがあります。NHKのアナウンサーは少なくともマイクの前では「やばい」とは言いません。「にしゃ」も同様に不遇な扱いを受けています。

ただ、「にしゃ」は私も中学時代に聞いたくらいで、その後はまったく聞きません。自分もしゃべったことはありません。今回は例外として取り上げました。

●にだくさい・・・例題です。「あいづ、A（のづら）に、にだくさいずな」「ほだが」。これは「あの人（の顔は）、A（の顔）に、似ているような感じだね」「そうかな・・・？」という意味です。

「にだくさい」は「似ているように感じる」という意味です。「似ている」と断言しているのではなく、「似ているような」「似ている感じがする」という意味です。

例題では「あいづ、A（のづら）に、にだくさいずな」に対して「似ているかな・・・？」という意味の「ほだが」という反応があったという場面です。

「あそごんどごさたったうち、おまえのうっちゃ、にだくさいず」は「あそこに新築された家（住宅）だが、おまえの家に似ている感じがするよ」という意味です。

「おまえがかいだ作文だげんど、Aのど、にだくさいほんねが」は「おまえが書いた作文は、Aが書いた作文に、似かよっているんじゃないですか」という意味です。このような例題と「にだくさい」ことって、世の中に相当ありそうな気がします。

●ぬすくらい・・・例題です。「ぬすくらいしたな、おまえだべ」「ほんね。してねず〜」。これは「つまみ食いしたのは、お前だろう」「違う！（つまみ食いは）していません」という意味です。

「ぬすくらい」は「つまみ食い」です。ただし、「つまみ食い」は良くないことかもしれませんが、美味しいから、あるいはお腹が空いているから「つまみ食い」をするわけで、ご愛嬌というか、笑って済むこともあるのではないのでしょうか。

これに対して「ぬすくらい」は「悪いこと」というニュアンスが強くなります。「ぬすくらい」をすると「行儀悪い」と叱られるのです。

語源はわかりませんが、「ぬすくらい」が「ぬすっと」（盗人）の言い回しに近いことから推測できます。例題も「ぬすくらい」されて犯人捜ししている雰囲気です。

●ぬだぐる・・・「塗る」という意味ですが、「塗ってほしくないところに塗る」「塗ってほしくないモノを塗る」場合に言う言葉です。

例えば、洗濯したばかりの着物に、いたずらで泥を塗られてしまった（付けられてしまった）場合、「どろんこ、ぬだぐらっちゃ」と言います。

●ぬっちゃ・・・・2つの意味があります。1つは「濡れた」「濡れてしまった」という意味です。「急に雨が降ったもんだがら、ぬっちゃず（急に雨が降ったので、濡れてしまった）」「びちゃあそびしたんべ、ぬっちゃでら（水溜まりで遊んだね。濡れたではないか）」

もう1つは「塗るよ」「塗るぞ」「塗ります」という意味です。例題です。「積み木、赤でぬっちゃ」は「積み木、赤（の絵の具）で塗るよ」という意味です。この場合、「ぬんぞ」という言い方もします。

●ぬるこい・・・・例題です。「このおしる、ぬるこいず」。これは「この味噌汁、ぬるいよ」という意味です。

「ぬるこい」とは「ぬるい」という意味です。「丸い」を「まるこい」というのと同じです。

「お茶は、あつついより、ぬるこいほうが、うまいがもしんね」は「お茶は、熱いより、ぬるい方が美味しいかもしれないね」という意味です。

「お風呂、ぬるこいず。あつつくしてけろ」は「風呂、ぬるいので、熱くしてくれ」という意味です。

●ねそげる・・・・「ゆんべ、ねそげだ」とは「昨夜は、寝付くことができなかつた（眠れなかつた）」という意味で、そのため「寝不足になつた」という意味も含まれます。例題をもっと具体的にしますと、「ゆんべ、興奮して、ねそげだ」とか「ゆんべ、おぢやのみすぎで、ねそげだ」と言います。夕方以降、お茶を飲みますと「ねそげる」人が、私の周りにも、お年寄りの方で、よくいらつしたものでした。

というわけで、「ねそげる」とは、寝付くことができない、眠れないことを言います。あと、例題に出てきました「ゆんべ」とは「ゆうべ（夕べ、昨夜）」のことです。

●ねっちょ・・・・「辛抱強い」と訳されているのが多いようですが、「しつこい」という意味合いもあります。ただ、この場合の「しつこい」は、同じことを何度も言う「くどい」という意味合いではなく、いつまでも同じことをやっていることに対して感じる「しつこい」です。

例題です。「あいづ、ま～だしつたじさ。ねっちょだずな～」。これは「あの人、まだやっています。しつこいね」という意味合いです。ただ、これにはさらに「熱中しすぎている」「凝り性」という意味合いまで含まれます。

ですから、「辛抱強い」と評価される場合もあるでしょうが、自分は「ねっちょ」な人にはなれない、という意味合いにもなります。

●ねぶかき・・・・「ねぶかき」とは「ね（寝）むかき」のことです・・・・と説明しようとしたら、「ねむかき」も標準語ではなく、一部の地域（ある程度広い地域のようなのですが）に使われている言葉であることがわかり、私自身の知識の狭さにごく然としております。

「ねむかき」とは、ちょっとした「居眠り」のことで、夜中の熟睡のことを「ねむかき」とは

言いません。昼下がりに公園のベンチで居眠りをしている・・・そんな感じです。

「ねぷかき」は「ねむかき」がさらになまった言い方です。

●ねんぼろけ (ねんぼろげ)・・・「寝ぼけ」がなまった言い方です。「寝ぼけ」では表現しきれず、寝ぼけている様子を強調しようとしている内に「ねんぼろけ (ねんぼろげ)」と言うようになったのかもしれませんが。

「寝ぼける」とは、例えば朝、まだ十分に目がさめていない状態で、ぼんやりしている、あるいは変な言動をすることを言います。それが転じて、夜中に起き上がって変な言動をする、さらには(日中でも眠っていないのに)訳の分からない言動をすることを言います。それから、ぼんやりした写真・絵画・風景なども「寝ぼけた・・・」と言います。

会議などで突飛なことを言いますと、「ねんぼろげでんなよ！」と言われてしまいます。でも、「突飛なこと」が本当は素晴らしいアイデアなのかもしれませんね。「ねんぼろげでんなよ！」と言って発言を制限してしまうことは良いことではありません。

●のさくさ・・・例題です。「のさくさしねで、はやぐしろず」は「もたもたしていないで、早くしなさい」という意味です。朝の出掛ける時などに見られる光景です。

「のさくさ」とは「もたもた」「のろのろ」という意味で、行動が遅いことに対して使う言葉・セリフです。

●のたばる・のったばる・・・意味は、仰向けになって横になっている様子を指す言葉です。

例えば、部活の練習が厳しく、ヘトヘトになってしまいました。それで、練習が終わった途端、グラウンドに倒れ込みます。これが「のたばった」「のったばった」です。

ベッドの上などで横になっているのではなく、例えば、茶の間の真ん中など、普通なら横になるべきでないところで、仰向けになって横になっている状態を指す言葉でもあります。そこで飛び出すセリフは「そがなどごで、のたばってんなず (のったばってんなず)」。

「適当な場所で横になっている」という意味から「のさばる」という意味で使うこともある言葉です。

●のぺーっとする・・・例題です。「のぺーとした味だずな」。これは「まずい」わけではありませんが「美味しくもない味だね」「何の変哲もない味だね」というような意味です。要はなんの特徴もない味という意味です。

例題です。「のぺーっとしてんなず」。これは「ボーッとしているな」という意味です。この背景には、「いつまでもボーッと休んでいないで、早く仕事をしなさい」という意味が込められています。

例題です。「このラーメン、のぺーっとなっちゃった」。これは「このラーメン、のびちゃった」という意味です。ラーメンだけでなく、食べ物でも、作ってしばらくして、グッタリしたようになりますと、「のぺーっとなった」と言います。

例題をいくつかご紹介しましたが、「のぺーっとする」をひと言で説明するのは難しいです。でも、3つの例題から何か共通するものは感じるでしょう。それが「のぺーっとする」の意味で

す。

●のぼせる・・・例題です。「おまえ、みんながほめらっちゃがらって、のぼせでいんなよ」。これは「おまえ、みんなにほめられたからと言って、調子に乗るなよ」という意味です。

このように「のぼせる」とは「調子に乗る」「いい気になる」「自惚れる」「有頂天になる」というような意味です。しかし、「のぼせる」とは言いません。つまり「おれ、のぼせだよ」（私、いい気になりました）などとは言いません。うぬぼれている相手に注意する時に言う言葉で「のぼせるな」「のぼせないように」などと言います。

なお、辞書では「のぼせる」について、お風呂に入りすぎ、暖まりすぎて、ポ～っとなった状態のことを指しています。こちらの「のぼせる」は「おれ、のぼせちゃった」と自分に対しても言います。

ただ、この「のぼせる」も体には良くありません。お風呂には気を付けて入りましょう。特に熱いお風呂に肩までつかり、長時間入っているのは、良くないようです。

また、辞書には「興奮して理性を失う」「逆上する」という意味も紹介していますが、私はこの意味で「のぼせる」とは言いませんでした。

●のんの・・・幼児がお絵描きを始めます。あるいは簡単な言葉を書きます。そのことを「のんの書きする」と言います。

ちいちゃなお子さんは「のんの～」と言いながら、例えば、大きな丸を描いたり、好きなように描きます。このように絵を描く時や楽書きする場合に「のんの～」と言うことが多いです。

ほかには、言葉を書く時に、書く言葉が決まってしない場合などに「のんの書きする」と言います。

「のんの」は、幼児語であり、幼児に対して使う言葉です。

●ばいだ・ばえだ・・・芋煮会です。まずは火をおこします。火がおきたら、火が消えないように「ばいだ、くべろ」。これは「木（の板）を燃やせ」という意味です。

「ばいだ」あるいは「ばえだ」ですが、私も意味はなんとなく憶えているものの、最近はやったり聞いたりすることはなく、記憶も薄れ、なんと説明して良いか、悩むところです。ここままですと、過去の言葉になってしまいます。

「ばいだ・ばえだ」とは、木材でも板状のものを指していたと記憶しています。ただ、人によっては「薪」も「ばいだ・ばえだ」と言っていたそうですが、私は「板状の木材」のみを指していました。

●はがいぐ・・・例題です。「きょうは仕事、はがいぐずな（はがいぐごど）」。これは「きょうは仕事、進むね」という意味です。「はがいぐ」とは、物事や仕事が「順調に進む」「思っていたより進む」というような意味です。物事がはがいぐど、みんな喜びます。

この反対は「はがいがね」と言います。いろいろな原因・トラブルによって、仕事や物事は「はがいがねぐ」なります。

さて、もうひとつ例題をご紹介します。こんな言い方もあります。「ご飯、はがいぐずな（はが

いぐごど)」。これは、ほかの人より食事のペースがはやかったり、何回もご飯のおかわりをする人に言うセリフです。この背景には、「たくさん食べてもらって嬉しい」という意味もあれば、「そんなにたくさん食べないで」や「そんなに早く食べないで」という思いが込められている場合があります。

これにも、「ご飯、はがいがねごど」という言い方があります。これは、ご飯の食べ方が遅い様子を心配して（体調が悪いのか、嫌いなものがあるのか、といった心配です）言うセリフです。

●はかどる（はがどる）・・・「はがいぐ」と同じ意味で、物事や仕事が「順調に進む」「思っていたより進む」というような意味です。この反対は「はかどんね」「はがどんね」「はかどらない」「はがどらない」と言います。

また、「はがいぐ」と同様に「ご飯、はがどっこと」とは「ご飯、進むね」という意味です。

●はしりっくら・・・例題です。「おまえ、はしりっくらさでんなが」。これは「おまえ、（運動会の）かけっこに出場するのか？」という意味です。

「はしりっくら」とは「かけっこ」のことです。ただし、単に「かけっこ」をしても「はしりっくら」とは言いません。例えば、運動会でのかけっこ「競争」を指します。

「おまえど、はしりっくらすんべ」となりますと「お前とかけっこ（競争）をしよう」という意味になります。

「はしりっくら」は「かけっこ」全般を指しますので、例題では「おまえ、はしりっくらさでんなが」「でる」「なにさでんなが」「100m」というように続きます。

また、もうひとつの例題では「おまえ、はしりっくらすんべ」「どこまで」「あそこの角まで」というように続きます。

●ばっこ・・・「うんち」のことです。昔はよく子どもが「ばっこ、でる～！」などと言いましたが、最近はあまり聞かれなくなりました。なお、米沢では「うんち」とは言わず「うんこ」とよく言います。

●はっしゃ・・・例題です。「おまえんどごのうぢのはっしゃ、たいしたもんだずな」。これは「お前の家（住宅）の柱は、大したものだな～（立派だな～）」という意味です。

「はっしゃ」とは「柱」のことです。

言い換えますと、「はっしゃ」とは「柱」がなまった言葉です。このように、元々あった言葉がなまったり、言い方が変わったりして、方言になることがあります。「はっしゃ」はその例です。

「はっしゃ」とは「柱」です・・・と説明されるとすぐに納得できますし、ちよっとなまっただけの言葉ですが、なにも予告なしに「はっしゃ」と書かれますと、私も一瞬「なんだっけ？」となってしまいましたので、取り上げました。

●ばっち・・・意味は「末っ子」です。「ばっちこ」と言う人もおります。私は末っ子ですので、「ばっち」あるいは「ばっちこ」は頻繁に聞いた言葉です。さて、この「ばっち」という言葉には、どんなニュアンスがあるのでしょうか。

だいたいにして、今どき「末っ子」という言葉自体、死語になりつつあります。それは少子化だからです。子ども1人に「末っ子」と言う表現はあり得ません。子ども2人でも「末っ子」とはあまり言わないと思いますが、いかがでしょう。

標準語の「末っ子」で考えてみましたが、「ばっち」とは兄弟がたくさんいたから存在した言葉なのです。

では、なぜ「ばっち」という言葉が存在するのでしょうか。「ばっち」とは、単純に「かわいい」という意味合いから、「親だけでなく兄・姉たちにも育てられた」という意味も込められています。

つまり、「ばっち」という言葉には、家族の絆という背景を見出すことができます。

「ばっち」の解説がこんなに長くなるとは思いませんでしたが、私自身が「ばっち」だからなのでしょう。

なお、「ばっち」は女の子には言わなかったと思います。男の末っ子が「ばっち」です。

●ばっちゃ・・・「おばあちゃん」という意味です。今さら説明するまでもない言葉ですが、標準語ではなく、辞書にも説明がありません。いわゆる俗語なのでしょうが、ここでは「米沢でもしやべらっちえきた言葉」として取り上げました。

「おばあちゃん」と言われる年齢に達していなくても、身体の衰えを感じますと、「ばっちゃになっただな～」と言われてしまいます。さらに、若い人より年齢が高いたけで「ばっちゃ」と言われます。もちろんこれは、ふざけての言い方、親しみを込めての言い方であります。

●はっちゃける（はっちゃげる）・・・人は、特に子どもは、良いことがあったり、嬉しいことがあります。それを表現するために、ふざけたり、はしゃいだりすることがあります。こうした行為や様子を「はっちゃける（はっちゃげる）」と言います。

「はっちゃける」は標準語のように思っていたのですが、取り上げている辞書は一部だけであって、取り上げられていない辞書もあり、標準語ではなさそうです。それで、ここでは「米沢でもしやべらっちえきた言葉」として取り上げました。

調べてみますと、「はっちゃける」は「2000年頃から若者を中心に使われるようになった言葉」と説明しているものがありました。しかし、私などは、それ以前から使ったり、聞いていたりした言葉です。また、先に説明しましたが、子どもがふざけたり、はしゃいだりしている様子と言うことが多いです。だから、若者言葉という意識はありません。

それから、大人がストレスを発散するために、ふざけたり、はしゃいだりすることを「はっちゃける」と説明しているものもありますが、大人に対して「はっちゃける」とは言いません。

嬉しくなったり陽気になって、意味もなく、ピョンピョン跳ねたり、走り回ったりしている様子を「はっちゃける（はっちゃげる）」と言います。

●ばっぺ・・・例題です。小さなお子さんが泥わっさ（泥遊び）をしています。それを見たおおかあさんが「ばっぺになっから、すんなず」と言います。これは「汚（きたな）くなるから、やめなさい」という意味です。

この場合の「ばっぺ」には、「(手が)汚(きたな)くなる」と「(衣服などが)汚(よご)れる」という意味があります。

たくさん砂遊びをした小さなお子さん、おかあさんに、砂ですっかり汚れた手を差し出して、「ばっぺ〜」。これは、手が汚くなったことをアピールし、「手を洗ってほしい」と訴えている場面・・・という設定です。おかあさんは「ばっぺになっただずな〜」（汚くなったね〜）と反応します。

「ばっぺ」は幼児に対して使う言葉です。

●ばっぺ・・・例題です。「お前は、ばっぺな役だずな〜」。さて、「ばっぺな役」とはなんでしょう。例えば、飲み会です。私が運転手を引き受けることになりました。ということは、アルコールは飲むことができません。ところが、なんと会費は、ほかの人と同じです。これって、割合合わない（割に合わない）ですね。これが「ばっぺな役」であります。

「ばっぺ」とは「割り（に）合わない」という意味です。その背景には「一生懸命やったのに・・・」とか「自分ばかり、どうして・・・」というニュアンスが含まれてきます。

「ばっぺ仕事」というセリフを聞くことがあります。これも「割り（に）合わない仕事」という意味です。米沢では、下請けならまだ良い方で、孫請け・ひ孫請けという仕事もたくさんあります。そうすると、どうしても「割り（に）合わない仕事」になってしまいます。

●鼻水おしょれる・・・山形市民の前で「鼻水おしょれる」と言いました。そして「意味わかりますか？」と尋ねました。「わかりません」という答えでした。まあ、予想通りです。

「鼻水おしょれる」は、私だけに通じる言い方もかもしれません。私の場合、「鼻水おしょれる」は「まいった！」という意味で言っております。

ちなみに「おしょれる」は、すでにご紹介していますが、「折れる」という意味です。「この木の枝、おしょんぞ」とは「この木の枝、折るぞ」という意味です。

●はまる・・・「参加する」「（メンバー・会員・仲間に）入る」「加わる」という意味です。

例題です。「運動会に、はまります」は「運動会に参加します」という意味です。「飲み会に、はまんねが」は「飲み会に参加しないか（しませんか）」という飲み会への誘いのセリフです。

例題です。「イベントすんぞ。実行委員会にはいってけんにかが」は「イベントをするぞ（開催することになった）。（イベントを主催する実行委員会を立ち上げるので）実行委員会に入ってくれないか（実行委員会のメンバーになってくれないか）」という依頼のセリフです。

「あそごのNPOに、はまったじゃ」は「あのNPOに入りました」（会員になった。あるいは活動するメンバーになった）という意味です。

『ボランティア、たんに』というもんだがら、はまってきたじゃ」は『ボランティアが足りない』と言うので、（そのボランティア活動）に加わってきました」という意味です。

例題です。「はめて」は「仲間に入れて」という意味です。ここでの仲間とは「遊び仲間」や「飲み友だちの仲間」というニュアンスです。

これに対して、「いいべ」だったら仲間入りできますが、「はめらんにかが」は「仲間ができない」という意味になります。

「はまる」は、米沢以外の人には意味が通じないことがあります。でも、私でさえ今でも使う言

葉で、米沢弁を代表する言葉のひとつです。

「はまる」という言葉が、標準語でもあり、その意味がいろいろあることも、米沢弁の「はまる」を理解にしくくしているようです。標準語の意味は次のとおりです。(大辞林：三省堂)

1. ぴったり合ってはいる。
(ア) 穴・枠・溝などの内側に物がはいる。
網戸の一・った窓 ボタンが一・らない
(イ) 物の外側に収まる。
蛇口にホースが一・らない
2. 川・池などに落ち込む。
深みに一・る 溝に一・る
3. 計略にかけられる。
わなに一・る 思うつぼに一・る
4. 条件にぴったり合う。適合する。あてはまる。
役に一・っている
5. (「型にはまる」の形で) 行動・表現などが類型的である。
型に一・った文章 型に一・った教育
6. 専念する。また、夢中になって身動きがとれなくなる。

●はめちっこ・・・「仲間外れ」という意味です。遊び仲間に「はまりたく」(入りたく)ても、「はめらん」と言われて入るのを拒まれますと、「はめちっこ、さっちゃ」(仲間外れにされた)となります。「はめちっこ」は子どもの遊びの世界での言葉です。

●ばよいくら・ばよいくら・・・例題です。子どもたちがお菓子を食べています。A君はチョコレートを食べています。B君はおせんべいを食べています。B君はA君が食べているチョコレートが食べたくくなります。B君はA君に近づき、A君の前にあるチョコレートに手を伸ばします。A君はチョコレートを取られないようにします。B君、それでも手を伸ばします。とうとうA君とB君は、チョコレートの「ばよいくら(ばよいくら)」を始めました。

「ばよいくら・ばよいくら」とは「取り合い」「奪い合い」という意味です。周りの大人からは「ばよいくら(ばよいくら)、してんなず」という声が飛びます。「取り合い、するな(やめなさい)」という意味です。

「ばよいくら・ばよいくら」は、食べ物での取り合いが多いです。

でも、こんな例題もあります。子ども(A君)がおもちゃで遊んでいます。そこへ別の子ども(B君)が近づいてきます。B君もそのおもちゃで遊びたいからです。でも、A君はそのおもちゃを独り占めしたいです。B君はどうしてもそのおもちゃで遊びたいです。B君はA君が抱えているおもちゃを取ろうとします。A君はB君におもちゃを取られないようにします。とうとうA君とB君はおもちゃの「ばよいくら(ばよいくら)」を始めました。

●はらくっち・・・「お腹いっぱい」「満腹」という意味ですが、ニュアンスとしては「苦しいほどお腹いっぱい」という感じです。早い話、食べ過ぎてのお腹いっぱいなのです。

例題です。「お餅、いっぱい買ったもんだがら、はらくっちいず〜」は「お餅、たくさん食べたので、お腹いっぱいです」という意味です。「はらくっちいもんで、あどかんに」は「お腹いっぱいなので、あと（これ以上）食べられません」という意味です。

食べ過ぎには気を付けましょう。

●ばんかだ・・・ひとつは、挨拶の「こんばんは」という意味です。実際の挨拶では「おばんかだ〜」と言います。よその家を訪ねた時、ミーティングなど顔を合わせた時などに「おばんかだ〜」と挨拶します。

ただ、私自身は「おばんかだ〜」と言って挨拶したことは、ありません。私が20代後半の一時的に取り組んだアマチュア無線の世界で、「おばんかだ〜」と挨拶するのを聴いて初めて知った言葉です。

この「おばんかだ〜」から「ばんかだ」は「夜」という意味があります。

しかし、「ばんかだ」は「夕方」という説もあります。それで、「おばんかだ〜」は「夕方の挨拶言葉」という説まであります。考えてみますと、標準語で「こんにちは」「こんばんは」はあっても、「夕方の挨拶言葉」にあたる標準語はありません。

そのためでしょうか、テレビなど放送では、午後5時になると「こんばんは」と挨拶していることがあります。冬至前後の日の短い時なら違和感なしですが、夏至前後の日が長い季節では違和感ありです。

「ばんかだ」が「夕方」なのか「夜」なのか、私にもよくわかりません。

●ぱんぱえ・・・これって米沢だけの言い方でしょうか。「ぱんぱえ」とは「めんこ」のことです。ぱんぱえでは私もよく遊びました。私などは「めんこ」という言葉は、だいぶ大きくなってから知りました。

小さなぱんぱえから大きなぱんぱえまで、近くの駄菓子屋で買って遊びます。数人のガキ同士で遊びます。はじめは小さなぱんぱえを出して様子をうかがいます。

うまい（これも方言かな。「うまい」とは「上手」のこと。さらに米沢では「じょんだ」と言います）ヤツがいて、コテンコテンにやられることもあります。

途中、いきなり大きいぱんぱえを出されて「エーっ！」となります。その風圧で、小さなぱんぱえは吹っ飛ばされます。でも、小さなぱんぱえで大きなぱんぱえを飛ばしますと、快感！！

●はんばげる・・・急いで食べたり、食べ過ぎたりしますと、むせかえったり、吐き出してしまふことがあります。この「むせかえる」「吐き出す」ことを「はんばげる」と言います。また、「吐き出しそうになる」ことを「はんばげそうになる」と言います。

これが転じて・・・例えば、いろんな仕事を一度に頼まれてしまうと、「はんばげる」ことがあります。

同じように、一気に「これもおぼえろ、あれもおぼえろ」と言われますと、脳ミソは「はんばげます」。多くの情報が一気にやってきて、処理能力を上回りますと「はんばげます」。つまり、コンピューターでも「はんばげる」ことがあります。

●びじゃ・・・地面や道路などにできた「水溜まり」のことを「びじゃ」と言います。

「びじゃ」は、特に子どもや幼児に対して使う言葉です。子どもは、水溜まりに入るのが好きです。歩くと「ピチャピチャ」と音を立てたり、水が勢いよく跳ね上がるからです。しかし、服は汚れてしまいます。

そこで大人は「びじゃさ、はいんなず！」（水溜まりに入るな）と叱ったり、「びじゃさ、はいんなよ〜」（水溜まりに入らないでね〜）と注意を促したりします。

●ひしゃしい・・・例題です。街を歩いていたら、バッタリ会って言うセリフは「お〜、ひしゃしいずな〜」「お〜、ひしゃしいごど」。これは「お〜、久しぶりだね」という意味です。

「ひしゃしい」は「久しぶり」という意味です。

●ひっからびる・・・これを標準語で説明しようとする、意外に難しいのであります。

「ひっからびる」は、水気が無くなって、カラカラになってしまうことです。そのため、「ひっからびる」を「乾燥する」「乾く」と説明しているものがあります。でも、洗濯物が乾燥した時に「ひっからびだ」とは言いません。洗濯物は「乾いた」のであります。

「ひっからびる」は、草木花が「枯れる」という意味もありますが、すべての「枯れる」を意味するものではありません。樹木そのものが「枯れた」時に、「この木、ひっからびた」とは言いません。

では、どんな時に言ったのでしょうか。

例題です。道路で死んでしまったビッキ（カエル）。日に照らされて、水気がすっかり無くなりました。それを見た子どもの私は言います。「このビッキ、ひっからびだ！」

もうひとつ例題です。花ビンにさした花。やがて「しんなびます」（しおれます）。さらに、水も無くなったのに、そのままにしますと、「ひっからびます」。

●びっき・・・「カエル」です。米沢市内には“びっき石”という場所があります。市の中心部から見て南南東方向の郊外にある小高い山の頂上に“びっき石”はあります。

●びっこたっこ・・・例題です。「この机、びっこたっこだ！」。どうやら、この机、4（3）本脚の内1本が短いため、不安定でガタガタするようです。このように、同じ長さであるべき脚が不揃いで、不安定になりガタガタする状態を「びっこたっこ」と言います。

日曜大工で作るのは良いけど、物置台・椅子・飯台（テーブル）などで「びっこたっこ」になりませんでしたか。

●びったし・・・例題です。「お前の背丈、170 だべ」「びったしだ〜」。これは「お前の背丈は170cm だろう」「ピッタリです」という意味です。

「びったし」は「ピッタリ」「ぴったり」「ズバリ」という意味です。

「ぴったり」がなまって「びったし」に、さらに「びったし」がなまって「びったし」になったものと思います。

この内、「びったし」という言葉は「びったし カン・カン」というテレビ番組がありましたの

で、全国的な言葉と考えますが、辞書では「俗語的な言い方」と説明しています。

●ひっちゃばぐ・・・「引き裂く」「破く」という意味です。

「ひっちゃばぐ」ものとしてすぐにイメージするのは、障子（しょうじ）や襖（ふすま）です。「だれだ！障子をひっちゃばいだのは」（誰だ！障子を破ったのは）というセリフは、よく聞かれました。また、子どもが遊んでいる時は「障子、ひっちゃばぐなよ」（障子を破るなよ）というセリフもよく聞きます。ほかには、子どもが元気に遊びすぎて、衣服を「ひっちゃばぐ」ことがあります。また、文筆家では、書いた原稿が気に食わず、その原稿を「ひっちゃばぐ」ことがあるのでしょうか。

●ひっぱる・・・例題です。「くるま、ひっぱってきたぞ」。これは「車で（車を運転して）（ここへ）来たよ」という意味です。

元々は「操作する」という意味と思われそうですが、その応用から「自転車をひっぱる」さらに「車をひっぱる」、つまり「自転車に乗る」「車を運転する」と意味に広がりました。でも、なぜそうなったのかは、よくわかりません。街を歩きますと、ご年輩の方が、自転車を手で引きながら移動している様子をよく見掛けるのですが、ここからも「ひっぱる」という言い方が生まれたのでしょうか・・・？

「ひっぱる」を辞書で引きますと、いろいろな意味があります。その中に「（車両などを）強く引いて前へ進める。牽引する」がありました。つまり、それは「動かす」ことです。これが転じて「操作する」「運転する」という意味に発展したとも考えられます。

●ひとつつも・・・例題です。イベントです。大抽選会が始まります。手にはたくさんの抽選券を持っています。10等・9等・・・そして、2等・1等・特等。大勢の人が当たりました。しかし、自分が持っていた抽選券、たくさんあったのに当たりませんでした。そこで言うセリフは「ひとつつも、あだんね！」。これは「ひとつも当たらなかった」という意味です。

「ひとつつも」とは「ひとつも」がなまった言い方、あるいは「ひとつも」を強調する言い方です。そこからさらに「まったく」とか「全然」と訳すことができます。

「ひとつつも」は、米沢の方言というより、広く使われている言葉ですが、辞書に記載されていませんので取り上げました。

試験を受けました。結果は正解ゼロ。ここでも言うセリフは「ひとつつもあだんねがった！」

●ひのどぎ・・・「ひ」は「太陽」、「どぎ」は「時」がなまったものです。「ひのどぎ」とは「日の時」、すなわち「太陽が出ている時」、つまり「日中」のことです。ただ、朝や夕方「ひのどぎ」とは言いません。太陽が高い位置にいる時間帯と言います。

「ひのどぎはあづがっだぞな〜」は「日中は暑かったね」という意味です。

●ひぼ・・・「ひも」のことです。「ひぼ、ひっぱんぞ！」「ひぼ、むすべ」などと言います。

「ひぼ」は「ひも」より言いにくいですが、わざわざ言いにくい言い方をするのが方言です。

●ひまだれこぐ・・・例題です。停電になりました。仕事もできません。何もできません。ジッと電気が復旧するのを待つしかありません。つまり、強制的にヒマになってしまったわけです。そこで言うセリフが「ひまだれこいだ」。

「ひまだれこぐ」とは、本当はやることがあるのに、あるいはしなければならぬことがあるのに、ある条件によって、それが出来なくなり、ほかにすることもなく（ほかのことも出来ない状態になり）、結果的にヒマになってしまい、「何もしないで過ごす」ことを言います。言い換えますと、「時間を無駄にして過ごす」ことを「ひまだれこぐ」と言います。

もうひとつ例題です。AさんとBさんは、午後6時に待ち合わせして、2人で飲み会をすることになりました。さて、当日の午後6時になりました。Aさんは待ち合わせ場所に着きましたが、Bさんは来ません。いつまで経っても来ません。Bさんの携帯電話にかけても通じません。Aさんは一人で勝手に居酒屋へ行くことも出来ず、ジッと待つしかありません。午後6時30分、ようやくBさんが来ました。そこでAさんがBさんに言うセリフは「30分もひまだれこいだず〜！」。

この場合は、動くに動けない、待つしかない状況に追い込まれた場合の「ひまだれこぐ」であり、結果としては強制的にヒマな時間を過ごしたことになりますが、これはまさに「無駄な時間を過ごした」というニュアンスになります。

●ひょえっと・・・例題です。「ゆんべ、あいつ、ひょえっときて、かえってったず〜」。これは「ゆうべ（昨日の夕方）、あいつ、突然来て、帰っていったんだ」という意味です。

「ひょえっと」とは「突然」という意味です。それもだいたいは例題のように「ひょえっときて」という言い方をします。何の前触れもなく、突然やって来た場合に「ひょえっときて」と言います。しかも、なんだかんだした後、サッと帰ってしまう意味合いも含むことがあります。だから、そこには「何のために来たのかわからない」というニュアンスを含みます。言い換えますと、良い印象の時には「ひょえっときて」という言い方はしません。

●びろびろ・・・衣服が破れたり傷んだりしますと、「この服、びろびろだ」「この服、びろびろになったず」と言います。これから発展して、乱れた服装・格好をしていますと、「服みでみろ、びろびろだず」「びろびろな格好、してんなず」などと言われてしまいます。

「びろびろ」とは、衣服が破れたり傷んだりしている状態であり、服装・格好が乱れている状態・だらしない状態を言います。

●びんぞる・・・意味は「そる（反る）」です。「そる」の頭に「びん」を付け「ぞる」となまり「びんぞる」になりました。

今の時代に適当ではないのですが、「びんぞる」で思い浮かんだ例題は、(アナログ)レコード盤です。レコード盤は保管状態が悪いと、よくびんぞるものでした、びんぞったレコードをかけますと、針が上下に動きます。場合によっては、針が飛んだり、音がゆがんだりします。

●ひんのまえ・・・「昼前」という意味です。「昼の前」が訛った言葉です。

「ひんのまえに、おわしてけろず」（お昼前までに終わらせてください）、「ひんのまえに、かえってくんず」（お昼前までに帰ってくるよ）というような言い方をします。

●ひんまがる・・・例題です。小学校です。先生が子どもたちに定規を使って、真っ直ぐ線を書くように指導します。子どもたちは定規を使って線を書き始めました。その様子を見ていた先生が言います。「ひんまがったでら」と。

「ひんまがる」とは「曲がる」という意味です。ただし、歩いているの「右に曲がる」の「曲がる」ではありません。モノが「曲がる」の「曲がる」です。

例題では、子どもたちが書いた線が曲がってしまったため、先生が「曲がったぞ」と言ったわけです。はじめは真っ直ぐだった線も次第に曲がります。そこで言うセリフは「ひんまがった！」。どうして頭に「ひん」を付けて言うようになったのかは、わかりません。

●ひんまるめる・・・2つの意味があります。

1つ目は「まるめる」です。例えば、画用紙を「ひんまるめる」と言います。

2つ目は物事を「まとめる」「あつめる」という意味です。

例えば、バラバラな意見を「1つにまとめる」という意味です。ただし、どちらかと言いますと、良い意味で「1つにまとめた」のではなく、ある人が「強引にまとめた」とか、ある人が「言葉巧みにまとめた」という意味合いを含みます。だから、気が付いた時には「ひんまるめらっちゃ！」となってしまうのです。

●ぶさだ・・・例題です。「せっかくこしゃったんだがら、ぶさだにすんなよ」。これは「せっかく作ったのだから、無駄にするなよ」という意味です。

もうひとつ例題です。「ぶさだにならないようにこしゃえよ」。これは「無駄にならないように作れよ」という意味です。つまり、「余分なものが出ないように、ちょうど良い量で作れよ」という意味です。

「ぶさだ」は「無駄」という意味ですが、せっかくのモノを使わないで捨てたりする、という意味の「無駄」のことを言います。

また例題です。「ぶさだに使うなよ」。これは、すぐにダメにしてしまうような「荒い使い方をするな」という意味です。

モノは「ぶさだ」にしてはいけません。

●ぶじょうほ・・・例題です。「留守のどさござったそうで、ぶじょうほな」。これは、お客さんに対して「(私が)留守の時に来られたそうで、失礼しました」という意味です。すなわち、「ぶじょうほ」とは「ごめんなさい」という思いを込めての「失礼しました」という意味になります。

こんな言い方もあります。「おらいの息子が、ぶじょうほなごどしたようで・・・」。これは「自分の息子が、失礼なことをしたそうで・・・」という意味です。すなわち「失礼なことをした」という行動そのものを指している場合です。

さて、「ぶじょうほ」は「おしょうし」と同じように三段活用があります。

☆ぶじょうほ：ごく親しい人に対する言い方

☆ぶじょうほな：一般的・標準的な言い方

☆ぶじょうほなっし：丁寧な言い方。

●ふせる・ふせくさぐなる・・・例題です。「このまんま、ふせだんでねーが。においすんぞ」。これは「このご飯、悪くなったのではないか。臭いするよ」という意味です。

「ふせる」は、「すえる」と同じ炊いたご飯（米）が悪くなったことを意味する言葉です。「ふせくさぐなる」「ふせくさぐなった」とも言います。ただ、「すえる」より使う人は少ないかもしれません。米沢弁でもかなりマイナーな言葉です。

●ふっかえ・・・例題です。「あした、あめ、ふっかえ」。これは「明日、雨は降るだろうか？」という意味です。

「ふっかえ」は「降るだろうか」という意味です。

例題についてさらに解説しますと、2つのケースが考えられます。ひとつは「明日は雨が降りますか？」「明日は雨が降るでしょうか？」と雨が降るか・降らないかを尋ねているケースです。もうひとつは「明日、雨は降るだろうか？」と一人で、あるいは仲間同士で悩んでいるケースです。

「降るのだろうか・・・」という意味もあります。例えば、天気予報で雨の予報が出され、「やっぱり、ふっかえ」（やはり、降るのだろうか・・・）とすることがあります。

●ぶっちゃぐ・・・例題です。「誰だ！襖（ふすま）ぶっちゃいだな！」「おまえが！障子ぶっつあいだな！」。意味は「誰だ！襖を破いたのは！」「お前なのか！障子破いたのは」です。

このように「ぶっちゃぐ」は「破く」という意味です。

言い方は「ぶっちゃぐ」「ぶっちゃく」「ぶっつあぐ」「ぶっつあく」といろいろです。私は「ぶっつあぐ」から「ぶっつあいだ」と言うこともありました。

この「ぶっちゃぐ」は、特に破ると困るものを破かれた時に言います。だから、襖や障子が例題として出てきたのです。

紙を破いた時も「紙をぶっちゃいだ」と言いますが、これは「紙を破いてしまった」というニュアンスがあります。

●ふっぺ・ふんべ・・・例題です。「あした、あめ、ふっかえ」「ふっぺ（ふんべ）」。これは「明日、雨は降るだろうか？」「降るだろう」という意味です。

「ふっぺ」「ふんべ」は「降るだろう」「降ります」「降るぞ」「降るよ」という意味です。

文字だけでは説明しにくいですが、言い方でニュアンスが違ってきます。例えば、「あした、あめ、ふっかえ」というセリフに対して、素っ気なく「ふっぺ」「ふんべ」と言い放してしまう場合があります。これは「降る！」「降るぞ！」「降るよ！」という意味で、「あきらめなさい」というニュアンスもあります。

例えば、「あした、あめ、ふっかえ」というセリフに対して、同情しながら「ふっぺ」「ふんべ」と言えば、「残念だけど、降るのではないか」「なんとか降らないと良いけど、降るかもしれません」というニュアンスになります。

●ふんごぐる・・・例題です。「おれんどご、ふんごぐんなず〜」。お父さんとお子さんが寝てい

ます。寝相の悪いお子さんが、お父さんの背中を足で押ししてしまいました。背中に刺激を感じたお父さんがお子さんに発したセリフが例題です。

「ふんごぐる」とは、ある人が自分の体の一部で、ほかに人の体（の一部）を押ししたりすることを言います。

「ふんごぐる」は、それだけではありません。「布団をふんごぐる」という言い方もします。これも寝相が悪くて、掛け布団を押しやってしまったことを言います。

狭い部屋に大勢の人がいる中で、窮屈になっていたお子さんが、つい隣りの人を、足で押ししたりすると、これも「ふんごぐる」となります。

「ふんごぐる」は、普通「足で押しやる」ことを指しますので、「蹴る」という意味で説明しているものもありますが、サッカーのようなボールを蹴ることを「ふんごぐる」とは言いません。

足で「押しやる」ことを「ふんごぐる」と言います。

●ふんど・・・果物の「ぶどう」のことです。

例題です。「ふんど、くうが」は「ぶどう、食べますか（食べるか）」という意味です。

山形県はぶどうの産地です。特に南陽市（赤湯地区）や高畠町が産地です。大玉のぶどうも栽培していますが、8月を中心にした時期は、デラウェアの季節です。種がなく、赤い色の実で、甘みが強いのが特徴です。しかし、小粒なため、首都圏あたりではあまり人気がない、という話も聞きます。もっとも首都圏は山梨県に近いこともあります。

デラウェアは庶民のぶどうとも言えます。私もぶどうと言えばデラウェアです。美味しいです。

赤湯ではシーズンになりますと、観光ぶどう園がオープンします。

●ふんぬげ・・・例題です。おばあちゃんがおじいちゃんに「ジャガイモを買ってきて」を頼みます。おじいちゃん、近くのスーパーに行きます。ところが買ってきたのは人参とビール？ そこでおばあちゃんが言うセリフは「ふんぬげだずな〜」。

「ふんぬげ」とは「間抜け」「不注意」というような意味です。

例題です。ピクニックです。お昼になりました。オッとここでお弁当を忘れたことに気が付きます。こんな時も「ふんぬげ！」が飛び出します。

飲み会です。目の前にビールの入ったコップがあります。目の前だから、そこにコップがあることは、イヤでもわかります。でも、コップをひっくり返しました。そうなれば、「ふんぬげだずな〜」と言われてしまいます。

「鍋、あつづいがら、さわんなよ」（鍋、熱いので、触れるなよ）と注意されているにもかかわらず、触れてしまって「あっちい！」となると、「ふんぬげ！」。

「ふんぬげ野郎」は「間抜けな人（男性）」という意味で、いつも不注意により誤ったこと・間違ったことをしたり、忘れることが多い人を言います。

「ふんぬげんなよ」とは「間抜けになるなよ」「注意を怠るなよ」「忘れるなよ」というような意味です。

●ふんね・ふんねべ・・・例題です。「あした、あめ、ふっかえ」「ふんね（ふんねべ）」。

これは「明日、雨は降るだろうか？」「降らないだろう」という意味です。

「ふんね」「ふんねべ」は「降りません」「降らないよ」「降らないだろう」「降らないでしょう」という意味です。

ただ、「ふんね」と「ふんねべ」では、微妙な違いがあります。「ふんね」は「降りません」「降らないよ」と降らないことを断言する、つまり「間違いなく降らない」というニュアンスです。

一方、「ふんねべ」は「降らないだろう」「降らないでしょう」というニュアンスで、「降らない」とまでは断言できないが、「多分」あるいは「おそらく」「降らないと思う」というニュアンスで言う言葉です。

●ぶんぶぐれる・ぶんぶぐっちゃ・・・例題です。きょうはお父さんが子どもと遊ぶ約束をしていました。ところが、お父さん、急に仕事ができてしまいます。それでお父さんは子どもに「きょうは遊べなくなった。またにしようね」と言います。子ども、ぶんぶぐれます。こういう時は「ぶんぶぐっちゃ」と言います。

「むくれる」という言葉があります。これは「怒ってむっとする」「ふくれる」「すねる」という意味です。「むくれる」の頭に「ぶん」を付けて言い方を強め、それが「ぶんぶぐれる」に変化したのではないかと私は勝手に想像します。

例題は子どもでしたが、大人でも「ぶんぶぐれる」人はおられます。

意思疎通ができていれば、「ぶんぶぐれる」ことは少なくなります。

●べ・・・セリフの末尾・語尾に付く代表的な言葉（方言）のひとつです。いくつか例題をご紹介します。

「ケーキ、うまかったべ」は「ケーキ、美味しかったでしょ」という意味です。つまり、「美味しい」を前提にして「美味しかったこと」を確認しているセリフです。言い換えると「美味しい」ことについて同意を求めているセリフです。

「ほだべ」。「ほだ」は「そう」という意味です。これに「べ」を付けますと、「そうでしょ」という意味になります。これは、同意を求める典型的例です。

「そがな薄着だど、寒いべ〜」。これは「そんな薄着では、寒いでしょう？」という意味です。つまり、「寒くないですか？」と心配して尋ねているのです。

そこで、「服、きんべ（着るべ）」となります。これは「(寒いので)服を着ましょう」という意味です。この場合は、服を着ることを「促す」という意味や、あるいは子どもに対して「服を着なさい」という「指示・命令」の意味にもなります。

それで、子どもは「ほんじゃば、きるべ（きんべ）」と言います。これは「それじゃ〜、着るよ」という意味です。これは、服を着ることに「同意」「承諾」「指示に従う」意味の「べ」です。

「メシ、くうべ」は「(いっしょに)ご飯を食べよう」という意味で、食事することを「促す」、あるいは食事に「誘う」という意味のセリフですが、この例題には「指示・命令」というニュアンスは含みません。

「デート、すんべ」は「(オレと)デートしよう」という意味です。デートに誘っているセリフです。

「おまえは、なんにもしゃねべ」は「おまえは、何も知らないだろう」という意味です。これ

は「おまえは何も知らない」ということを、あらかじめ前提にしてしまい、それに同意を求めているセリフです。でも、相手から、こんなことを勝手に前提にされて、同意を求められたのでは、たまりません。これって、どこかで社会問題になりましたね。

もうひとつの「しゃねべ」を紹介します。ここでの「しゃねべ」は「仕方ないでしょう」「仕方ないですね」という意味です。「しゃね」は「知らない」という意味ですが、末尾に「べ」を付けると、まったく違う意味の「仕方ないでしょう」となってしまう場合があります。「夜の酒飲み、用事できで、いがんになつた」(夜の飲み会、用事ができて、行くことができなくなった・参加できなくなった)というセリフに対して「しゃねべ」(仕方ないですね)と言うわけです。

「わかったべ」は「わかったでしょう」という意味です。これは、理解したことを確認する意味と、これだけ説明したのだから「わからないはずはない」という意味合いを含む場合があります。でも、「これだけ説明したのだから」というのは説明者の自分に対する判断であり、相手が理解しないことについては「自分には責任はない」と言っているようなモノです。これはいただけません。相手が理解して、はじめて説明したことになります。

もうひとつ例題です。「明日は会社にいがんねべ〜」。これは「明日は会社に行かなければならないでしょう」という意味です。この例題の状況設定を詳しくみてみます。明日は日曜日です。会社はお休みです。遊びの予定があります。ところが、取引先の関係で、仕事をしなければならない状況になります。でも、出勤なんかせず、遊びたい。それで、友人に相談したら、友人が言ったセリフが例題だったのです。友人は「行け」と指示・命令しているわけではありませんが、「行くべきだ」と諭しています。「明日は会社にいがんねべな〜」と言いますと、さらに念押ししながら諭すことになります。

「さなんねべ」「しなんねべ」は「しなければならないでしょう」という意味です。「さなんね」「しなんね」だけでも「しなければならない」という意味になりますが、「べ」を付けることで、「納得させる」という意味合いになります。これは、「さなんねべ」「しなんねべ」と言った人が、そのことを「しなさい」「やりなさい」と指示しているのではなく、ほかの人が指示したことについて相談された場合に第三者として「さなんねべ」「しなんねべ」(しなければならないでしょう)と言って納得させているという事例です。

「べ」について、たくさんの例題をご紹介しましたが、それだけいろんなケース、それも微妙なニュアンスを含む場合にも使われているのです。「しゃねべ」のように「べ」を付けることでまったく意味が違ってくる場合もあります。だから、「しゃねべ」はひとつの言葉を考えるべきかもしれません。というわけで、「べ」が付く言葉については、それぞれの項でもご紹介します。

もっとも、実際に言う時には、深くなんか考えません。簡単に「べ」と言ってしまうんです。それだけ使い勝手が良いのでしょうか。だから、いろんな意味合いを持つことになったのかもしれない。

●ヘクサムシ・・・「カメムシ」のことです。「臭い」ことを強調するために、こんな言い方をしたのでしょうか。ただし「臭い」と言っても、オナラ(屁)のニオイとは違うようです。それから「ヘクサムシ」という言い方は、ネット上で調べた範囲では、意外にポピュラーではありませんでした。

さて、巷の状況によると、この秋はカメムシ君が大量に発生しているとか。カメムシ君が大量

に発生していると大雪になるとか。私もこのところカメムシ君をよく見掛けております。

●べご・・・「牛」のことです。

米沢は「米沢牛」で有名です。ですから、米沢市内には「べご」を飼っている農家がたくさんいます・・・というほどではありません。多くは、飯豊町など周辺地域で育成されております。

「べご」は、山形県内で広く使われている言葉で、山形県上山市の“蔵王マウンテンファーム 山川牧場”のテーマソングとも言える“山川さんちのべごにげだ”という歌があるほどです。

●べした・・・例題です。「おまえ、おれの饅頭、くったべした」。これは「お前、俺の饅頭、食べたでしょう」という意味です。この意味「おまえ、おれの饅頭、くったべ」でも同じなのですが、「くったべした」と言うところには、念を押す、確認する、という意味も含まれてきます。だから「お前、俺の饅頭、間違いなく、食べたでしょう」という感じになります。

すると、相手は「ほだよ」（「そうです」という意味です）と言うわけです。

「ほだべした」ともよく言います。これも「そうでしょう」と、念を押す、確認する、同意を求める意味で言います。

●へつけなもの・・・例題です。「へつけなもの、誰も買わないぞ〜」。これは「そんなもの、誰も買わないよ」という意味です。

「へつけなもの」とは「そんなもの」という意味です。評価しないもの、見下したもの、要らないものなどに対して使う言葉です。

「へつけなもの、いらね（ず）」は「そんなもの、要らない（よ）」という意味です。

●へっちえけろ・・・例題です。「でだゴミ、ここさへっちえけろ」。これは「出たゴミは、ここに入れてください」という意味です。

「へっちえけろ」は「入れてください」「入れてくれ」という意味です。この例題は「ゴミという『モノ』をゴミ箱という『入れもの』に入れる」という物理的な「入れる」です。

次の例題（フィクション）です。ゆるキャラの“かねたん”と“おせんちゃん”で人気投票することになりました。そこで“かねたん”が言うセリフは「おれんどごさ、へっちえけろ」。これは「私に（票を）入れてください」という意味です。すなわち、この場合の「へっちえけろ」は「投票してください」という意味です。

3番目の例題です。「さげのみ、すんなが。おれんどごも、へっちえけろ」。これは「酒のみ、するのですか。私も入れてください」という意味です。この場合の「へっちえけろ」は「仲間に入れてください」という意味です。この例は、子どもの遊びでもよく見られます。

4番目の例題です。「コーヒーさ、ミルク、へっちえけろな」。これは「コーヒーに、ミルク、入れてくれ」という意味です。「芋煮さ、さげ、へっちえけんべ。うまくなつがら」。これは「芋煮に、お酒を入れてくださいね。美味しくなりますので」という意味です。2つの例は、飲食・料理に関係する「入れてください」です。料理によっては「まぜる」という意味にもなります。

●べろっと・・・例題です。「おまえ、ま〜だ、かがねなが。おら〜、べろっと、かいだじゃ」。

この意味は「お前は、まだ書いていないのか（まだ書き終わらないのか）。オレは、全部書いたよ（全部書き終わったよ）」という意味です。というわけで、「べろっと」は、「全部、すべて」という意味です。

この「べろっと」、私は言ったことがあります。ただ、言うのは、本当に相手が親しい場合に限ります。それは、「べろっと」には、子どもっぽい、あるいは冗談っぽい感じがあるからです。

一方、「べろっと」を誰かがしゃべったのを聞いた記憶は、非常に少ないです。ですから、方言というより、自分が勝手にしゃべっていた言葉、とっていたほどです。軽い感じで「べろっと」と言ったこともあります。

●ほいじょ・・・「包丁」のことです。「このにぐ、ほいじょできってけろず」（この肉を、包丁で切ってください）などと言います。

「ほいじょ」は、子どもの頃から当たり前に使ったり、聞いたりしていた言葉でした。だから、「包丁」という言葉を知った時には、都会的に聞こえました。

●ほいど・・・いろんな意味がありますが、私がまず思い浮かぶのが「食い意地を張る」「食い意地が汚い」です。例えば会食で、ひとりだけ「ムシャムシャ」と食べ続ける人、会食が終わろうとしているのに「ムシャムシャ」と食べ続ける人、あるいはその行為を「ほいど」と言います。

そこから「いやしい」または「いやしい人」を「ほいど」と言います。

さらに「欲張り」「乞食・ものもらい」を「ほいど」ということもあるようですが、私はこの意味で使った記憶はありません。というより、そもそもが良い言葉ではありませんので、私自身使った記憶もありません。

●ぼう・・・「追い払う」という意味です。発音は「ぼお」ではなく「ぼう」です。この「ぼう」を基本に、いろいろな言葉があります。

「すずめぼい」は、稲穂を啄（ついば）むスズメを追い払うために田んぼに設置するもので、爆音を鳴らします。ただ、最近は近隣住民に迷惑がかかるということで、「すずめぼい」はめっきり少なくなりました。

「ぼったくれ」は「追い払え」という意味です。「押し売りだ、ぼったくれ」は「押し売りだ（押し売りが来たぞ）、追い払え」という意味です。

●ぼうろぐ・・・物に対して、古くなって傷んだ状態、ボロボロになった状態を指して言う言葉です。品質が悪い状態の物に対しても言います。壊れて使えない物に対して言う場合もありますが、壊れた物に対しては「ぼっこれ」と言うことが多いです。

例えば、「この携帯（電話）、ぼうろぐになって、つかわんに」（この携帯電話、古くなって、使えない）とか「この服、ぼうろぐになったもんだがら、なげっぺ」（この服、傷んだので、捨てよう）と言います。

●ポクポク・・・「ホクホク」の意味です。

例えば、私などは「ホクホクのサツマイモ」を「ポクポクのサツマイモ」と言います。同様に

「このかぼちゃ、ポクポクでうまいごど（ホクホクで美味しいです）」と言います。
逆にホクホクでなく、水っぽいかぼちゃのことは「ビジョかぼちゃ」と言います。

●ほげる・・・少なくとも私の解釈は「崩れる」という元の意味から、例えば「考えていた通りにならなくなった」、「考えていたことから逸れてしまった」という感じの言葉です。

また「ほどける」の略した（なまった）言い方という解釈もあります。さらに「感情的に熱くなる（興奮する）」や「とぼける」という意味合いもあった記憶があります。

「ほげる」は調べますと、全国各地で言われている言葉です。九州では「穴があく」という意味だそうです。釣りで「ほげる」は「まったく釣れなかった」という意味です。これは先にご紹介した私の解釈に近い意味です。

「ほげる」には「掘り下げる」という意味もあり、米沢ではこの意味で使われていると説明しているものもありますが、私にはこの解釈はありません。

こうして、私の記憶をたどったり、調べていきますと、「ほげる」という言葉は曖昧で、なんとなく使われてきたような印象です。

●ほごす・・・「ほごす」は標準語では「ほごす」と同じで「結んだり縫ったりしてあるもの、また、もつれたものを、といて別々にする。ほどく」（デジタル大辞泉）という意味です。例えば、「もつれた糸をほごす」という言い方をします。

ところが米沢では例えば「あそごんどごのうち、ほごしたじさ」と言います。これは「あそこの家、取り壊しているよ」という意味です。

つまり、米沢弁の「ほごす」は、建物などを「取り壊す」「解体する」という意味になります。

●ほだ・・・「そう」という意味です。つまり、同意する時に言います。

「ほだず」となりますと「そうだ」となります。つまり、「納得する」という意味合いも含んできます。

さらに「ほだずな～」となりますと、「そうですね～」となります。これには「同意させられる」「納得させられる」という意味合いが含まれます。

それから「ほだべ」となりますと「そうですね」という意味になり、相手に同意を求める時に言います。さらに、同意を求める時に、確認する、念を押す場合には「ほだべした」と言います。

ただし、「ほだべした」は同意を強調する、つまり「それは当然だ」という意味を込めて同意する場合にも言います。

同じ「ほだべした」でも、「べした」から考える「ほだべした」と、「ほだ」から考える「ほだべした」では、微妙に違うところが、方言のおもしろさです。

●ほだ・・・例題です。「ほだに入って、グジャグジャになった」。これは「(不覚にも)雪がいっぱい積もっているところに入ってしまい、身体が濡れてしまった」という意味です。

もうひとつ例題です。子どもが外で遊んできました。何をしてきたのでしょうか。「ほだこざぎ、してきたよ」。これは「雪がいっぱい積もっているところで、遊んできましたよ」という意味です。

「ほだ」は、いっぱい雪が積もって、そこに入ると、ズボっとぬかってしまうところです。つまり、降ったばかりの雪で、まだ締まっておらず、そこに入るとぬかってしまう状態のことです。あとは、吹きだまりになって、ほかのところより積もっており、余計にぬかってしまう状態のこととも言います。

「ほだ」は、腰までもぬかってしまうほど積もっています。

「ほだ」は、積もったばかりですので、人間が入っていない自然な状態で積もっています。そこに人間が入りますと、自然に積もっていた雪がグジャグジャになります。このようにすることを「こざく」と言います。

当然「ほだ」を歩けば、雪はグジャグジャになりますので、単純に、いっぱい積もっている雪の中を歩くことを「こざく」と言います。言い換えれば、「雪をかき分けて歩く」という意味です。

●ほだいに・・・例題です。「ほだいにもらって、なじよすんな」。これは「そんなに（たくさん）もらって、どうするの」という意味です。

もうひとつ例題です。「ほだいに、いらね」。これは「そんなに（たくさん）いりません」という意味です。

「ほだいに」とは「そんなに（たくさん）」という意味です。

ある物をお裾分けします。お裾分けする方は「たくさんあげると喜ぶ」と考えます。しかし、もらう方は「たくさんもらったから喜ぶ」というものではありません。たくさんもらいすぎて、結局無駄にしたのでは、もったいないことになります。特に食べ物では気を付ける必要があります。

「ほだいに」は、物をあげる時やお裾分けする時に出てくる言葉ですが、「たくさんあげれば良いというものではない」という意味を持つ言葉です。

●ほだがら（よ）・・・例題です。「ほだがら、ゆったべ。きいつけろって」。これは、あらかじめ注意したにもかかわらず、失敗した人に対して、「だから、言ったでしょう。気を付けろって」という意味で言ったセリフです。

「ほだがら（よ）」は「だから」という意味です。

しかし、標準語の「だから」には、「だから、こうなりました」というように、「このため」「そのため」「それで」という意味があります。しかし、「ほだがら」には「このため」「そのため」「それで」というような意味は含まれません。

もうひとつ例題です。「野球、負けたずな」「ほだがら（よ）。あそごで、ピッチャー交代させれば、いがったんだず〜」。これは「野球、負けましたね」「だからさあ。あの場面でピッチャーを交代させれば良かったのに・・・」という意味です。

この場合の「ほだがら（よ）」は、「自分だったら、このようにする」という思いがあり、他人の失敗を嘆いての「だから」という意味です。こちらの「ほだがら（よ）」は、あらかじめ注意しているわけではありませんが、相手や対象となる人が自分の考えと違うことをやってしまい、結果失敗したことに對して、嘆いた時に言います。

●ほだず・・・例題です。「あいづ、まだ、でほだれ、かだつでだほんねが」「ほだず」。これは「あ

いつ（あの人）、また、でたらめ（なこと）を言っているのではないか」「そうなんです（そうなんだよ）」という意味です。

「ほだず」は「そうなんです」「そうなんだよ」という意味です。

「ほだず」は、どちらかと言いますと自分としては「共感できないこと」「良くないのではないかと思うこと」などに対して、「そうなんです」「そうなんだよ」という意味で使う言葉です。

ですから、例えば「Aさん、表彰されたんだ。たいしたもんだずな～」に対して「ほだず」とはあまり言いません。

一方で、あの人の頭が良いことに対して「うらやましく思っている」という意味での「あいづ、あだま、いいずな～」と言うセリフに対しては、それに同調する意味で「ほだず」という場合があります。

「ほだず」は簡単に使う言葉ですが、いざ説明しようとする、立場や場面などで、微妙に意味が違ってきて、説明はかなり難しいです。

●ほだずな～・・・「ほだず」と同じような意味ですが、「ほだずな～」になりますと、「そうなんだよな～」というニュアンスです。

あることに対して、自分としては「共感できないこと」「良くないのではないかと思うこと」なのですが、事実として認めざるを得ない場合、あるいは同調せざるを得ない時に「ほだずな～」と言う場合があります。

例えば、「運動会、あしたでなく、こんどの日曜日だどいいんだげんどな～」（運動会、明日ではなく、次の日曜日の方が良いのだが・・・）「ほだずな～」。

もうひとつ例題です。「あそこの店、もうちんと、あがるいどいいほんねが」（あの店、もう少し明るい方が良いのではないか）「ほだずな～」。

●ほだどごでね・・・例題です。「雪つもったもんだがら、隣りのばっちゃんのうちの前の雪、はいでけっちゃんな」「ほだどごでね」。これは「雪が積もったので、隣りのばあちゃんの家前の雪かきをしました」「そうだよね」という意味です。

「ほだどごでね」は、標準語に訳しにくいデリケートな言い方であると、私（山口）は思います。それでも、あえて訳しますと「そうですね」という意味です。しかし、そこには「それで良いんだ」「そうしなければならないのだ」という意味が含まれます。

もうひとつ例題です。「友だち、入院したもんで、ずっと会ってねがっただげんども、見舞いさ行ったんだ」「ほだどごでね」。これは「友人が入院したので、しばらく会っていなかったのですが、見舞いに行ってきました」「それで良いんだよ」という意味です。

ここまで2つ例題をご紹介しましたが、これは優しい方です。

シビアな例題です。「長老のいうごどは、きかなんねど思う」「ほだどごでね」。実はこれが「ほだどごでね」のニュアンスを最も表している例になります。「長老の言うことには、従わなければならないと思います」に対しての「ほだどごでね」。これは「そうしなければならないのだ」の意味が強い「ほだどごでね」です。

今でも聞くことがある「ほだどごでね」ですが、ある年代より上の人しか言わない言葉ではないかと感じています。

●ほだながあ・・・例題です。「あいづ、会社やめたんだじさ」「ほだながあ」。これは「あの人、会社辞めたそうです」「そうですか」という意味です。

「ほだながあ」は「そうですか」という意味ですが、そこには「残念に思う」「ガッカリする」「落胆する」というニュアンスを含みます。ですから、良かったことに対して「ほだながあ」とは言いません。例えば、「このラフランス、美味しいよ」に対して「ほだながあ」とは言いません。

●ほだなごど・・・例題です。「あいづ、優勝したじさ」「ほだなごど、しゃね」。これは「あの人、優勝したんだよ」「そんなこと、知らない」という意味です。

この場合の「ほだなごど」は「そんなこと」という意味ですが、そこには「自分には関係ない」「自分は興味ない」という意味が含まれます。だから「知らない」のです。

もうひとつ例題です。「君は絵が上手だと聞いたが・・・」（標準語での表記です）に対して「ほだなごど、ゆわっちえも」とは、「絵を描いてほしい」という依頼に対して、「そんなことを言われても・・・」と断りたい気持ちを表現する「ほだなごど」です。

さらにもうひとつ例題です。「ほだなごど、すんなず」。これは「そんなこと、するな」と言う意味です。この場合は「そんなこと」とは「余計なこと」というニュアンスを含んでいます。「余計なこと」とは「嫌がられること」でもあります。

●ほだべ・・・例題です。「おまえは、あだまいいずな～。ほだべ」。これは「おまえは頭が良いよね。そうでしょう」という意味です。

「ほだべ」は「そうだろう」「そうでしょう」という意味です。つまり、相手に同意を求めたり、ある事柄について念を押す時に使う言葉です。

●ぼだもち・・・「ぼたもち」がなまった言い方です。

ところで、「ぼたもち」と「おはぎ」が話題になることがあります。「ぼたもち」と「おはぎ」の違いについては、「ぼたもち」は花の「ぼたん」から来ているので「春に食べるもの」、「おはぎ」は花の「萩」から来ているので「秋に食べるもの」・・・など、いろいろな説明（諸説）が紹介されています。

しかし、少なくとも私の周囲で「おはぎ」という言葉を聞いたことはありませんし、私も使ったことはありません。きょう食べたのは「ぼだもち」なのであります。お店では「おはぎ」として売っていても「ぼだもち」です。

「おはぎ」というと、なんとなく上品な感じがしてしまいます。

●ほだんよ・・・例題です。「あそごの会社、もうがってるんでねえが」「ほだんよ」。これは「あの会社、儲かっているのではないですか」「そうなんですよ」という意味です。

「ほだんよ」は「そうなんですよ」という意味です。

「ほだんよ」には、「自分が思っていたこと」とか「自分が思っている、なかなか口に出せないこと」などを言ってくれた場面で、そのことに「強く同調する」というニュアンスがあります。

●ほっか・・・例題です。「あそごのみせ、開店だど」「ほっか」。これは「あそこにある店、開店（オープン）だよ」「そうか」という意味です。「あそごのみせ、開店だど」には「いっしょに行ってみない」とか「開店だから、サービスがあるかもしれないよ」などの意味が含まれていそうです。しかし、それに対する「ほっか」は「だから、なんなの」というニュアンスです。

「ほっか」は「そうなんだ」という意味ですが、冷静な「そうなんだ」だったり、自分には興味がない「そうなんだ」という意味で使い場合が多い言葉です。「あ、そう！」と訳した方が良いかもしれません。

●ぼっこ・・・例題です。「このシャベロ、すぐぼっこたまんず」。これは「このスコップ、すぐに雪がくっつくよ！」という意味です。

スコップを使って雪かきをしています。でも、スコップの面に雪がくっ付いたのでは、雪かきはスムーズに出来ません。アルミ製のスコップでは雪もそんなにくっ付きませんが、昔はくっ付かないように、熱したシャベロの面にロウソクを塗ったものです。懐かしい！

さて、このように「ぼっこ」とは「雪」のことですが、スコップの面やスキーの面にこびり付いてしまった雪を指します。つまり、仕事や遊びには「邪魔な雪」のことを言います。

●ぼっこす・・・例題です。「そいず、いじっていんな。おまえはすぐ、ぼっこすがら」。これは「それ、さわるな。お前はすぐ壊すので」という意味です。

「ぼっこす」は「壊す」という意味です。

「コラ～！誰だ！オレのカメラをぼっこしたのは？」とオヤジが怒っています。よくあるシーンです。

●ぼっこっちゃ・・・例題です。「このテレビ、ぼっこっちゃ」。これは「このテレビ、壊れた（壊れちゃった）」という意味です。

「ぼっこっちゃ」は「壊れた（壊れちゃった）」という意味です。言い換えますと、「『ぼっこれ』状態になった（なってしまった）」という意味です。

「テレビ、ぼっこっちゃが？」は「テレビ、壊れたか？（壊れてしまったか？）」という意味です。これは、テレビがきれいに映らなくなったという現象だけで「ぼっこっちゃ」とは言わず、電器屋さんなどわかる人に対して、「もう直らないのか？」「直せないのか？」という意味を込めて「壊れた（の）か？」「壊れてしまった（の）か？」と尋ねている言い方です。

●ぼっこっちゃえしまった・・・これは「ぼっこれの状態になってしまいました」「壊れてしまった」「壊れてしまいました」という意味です。ここには、自分が（誤って）壊してしまったという意味合いを含む場合があります。

●ぼっこれ・・・例題です。「このテレビ、ぼっこれだ」。テレビがあります。ところが、映りません。あるいは音が出ません。映りますが乱れた画面です。このように、正常に機能を果たさないテレビに対して言ったセルフです。

「ぼっこれ」は、壊れている状態、完全に壊れていないまでも正常な機能を果たさない状態を

表す言葉です。ですから、テレビの場合、映るけど、色合いが変になったり、少しぼやけた画面になったりした時も「ぼっこれ」と言います。

例題です。デジカメで風景を撮影しています。美しい風景です。シャッターチャンスは今しかありません。突然デジカメが動かなくなりました。撮影できません。むかつきます。そこで言ったセリフは「こいず、ぼっこれデジカメだず」。ところが、あとで調べたら、操作方法が間違っていたため、動かなくなったことがわかりました。アチャー！ 「ぼっこれ」と思う前に、確認することです。

「ぼっこれ」は物に対して言う言葉ですが、発展して、人に対して言う人もいます。ただ、人に対しての「ぼっこれ」は良い言葉ではありません。とりあえず、例を示しますと、突然変な行動をとった人に対して「あいづ、ぼっこれだ」と言います。

●ぼっこれだ・・・厳密には2つの意味があります。ひとつは「ぼっこれです」、つまり「ぼっこれの状態です」「壊れている」「壊れています」という意味です。

もうひとつは「ぼっこれました」、つまり「ぼっこれの状態になりました」「壊れた」「壊れました」という意味です。

●ぼっこれる・・・これは「ぼっこれ状態になる」「壊れる」という意味です。モノは、いつかは壊れます。つまり「いつかは、ぼっこれる」のです。

●ほったぶ・・・「ほっぺ」のことです。「ほっぺ」と言えば、方言として「ほっぺだ」が紹介されます。しかし、「ほったぶ」を紹介しているものはありません。ということは、米沢でも「ほったぶ」と言う人は、ごく限られた人だけかもしれませぬ。まさにチョー・ローカルな言葉と言えます。

●ほっぺだ・・・例題です。「このおぼこのほっぺだ、やっこいごど」。これは「この子のほっぺ、やわらかいですね」という意味です。

どうしてうしろに「だ」を付けるのかはわかりませんが、その昔は「ほっぺだ」というのが当たり前でした。

●ほでね～べ・・・例題です。「はしりっくら、させっと、Aがはやいずな～」「ほでね～べ、Bがはやいべ」。これは「(AとB)にかけっこをさせると、Aが早いよね」「違うんじゃないの、Bが早いよ」という意味です。

「ほでね～べ」は「そうではないでしょう」「違うんじゃないの」という意味です。

例えば、会議での挨拶の順番を決める時、「最初は会長のAさんで、次は理事長のBさんにすんぞ」「ほでね～べ、最初はBさんで、次がAさんでないべが」という会話を聞くことがあります。席次を決める時にも、こんな会話を聞くことがあります。

●ほろぐ・・・雪国の米沢です。雪が降る中、歩きました。このため、着ているものにも、頭にも、靴にも雪が付きました。このまま、建物の中に入ってしまうと・・・。そこで言うセリフが

「ちゃんと、ほろげよ」です。

「ほろぐ」とは、衣服などについてた汚れや雪などを「はらい落とす」という意味です。「ちゃんと、ほろげよ」は「きれいに（雪を）落としなさい」という意味です。それは「きれいに（雪を）落としてから建物の中に入りなさい」という意味になります。

「ほろぐ」は東北各地でも見られる方言ですが、私の場合「（物を）落とす」や「紛失する」という意味で聞いたり言ったりしたことはありません。

●ほろげる・・・私（山口）は「ほどける」の意味で使っている言葉です。例えば、結んであった紐がほどけますと、「紐、ほろげた」と言います。

また「こける」という意味でも使うことがあります。例えば、歩いている時に転びそうになりますと、「ほろげた」と言います。

でも、こういう使い方は私だけなのでしょうか。調べますと、出てくるのは「（物が）落ちる」という意味などです。

●ほんじゃば・・・例題です。「ほんじゃば、すっぺ」。これは「それでは、やりましょう（しましよう）」という意味です。

「ほんじゃば」とは「それでは」「それじゃ～」という意味です。

例題の場合は、やるため（実行するため）の準備ができた、人数が集まった、やること（実行すること）についての同意・賛同があったなど、やるため（実行するため）の条件が整ったという前提を確認しましたので、それを受けての「ほんじゃば」（それでは）です。

「ほんじゃば、いがんにな～」は「それじゃ～、行かないね」という意味です。これは、相手から行くことができなくなった原因・事情を聞いたことで、「いがんにな～」（行かないね）と言ったという例題です。この「ほんじゃば」には「仕方がない」という思いもあります。このように、「ほんじゃば」とは、前提条件や諸事情があって、使う言葉です。

●ほんね・・・例題です。「ぬすくらいしたな、おまえだべ」「ほんね。してねず～」。これは「つまみ食いしたのは、お前だろう」「違う！（つまみ食いは）していません」という意味です。

「ほんね」は「本音」ではありません。否定する「No!」という意味です。特に、例題のように、疑いをかけられるなどにより、強く否定する場合に「ほんね！」あるいは「ほんねず～！」と言います。

これが「ほんねべ～」（違うでしょう）とか「ほんね～」（違う～）と言いますと、強さはやわらぎます。

●ぽんぽん・・・例題です。「道路、ぽんぽんになったず」。果たして、この意味は・・・

冬、米沢の道路は、雪によって、圧雪状態、シャーベット状態、轍（わだち）ができた状態、時にはグジャグジャ状態になります。雪が無くても、凍結したりしています。とにかく道路は大変な状態です。それが暖かく良い天気が続きますと、道路の雪は融け、濡れも無くなり、凍結の心配も無くなります。つまり、乾いて、障害等がない状態になります。車は走行しやすい、歩行者は歩きやすい状態になります。こんな状態になった時に「道路、ぽんぽんになったず」と言い

ます。

「ぽんぽん」とは「乾いた様子を擬音化した言葉」と思われます。

「ぽんぽん」は「道路が乾いた状態」ですが、学校の校庭などが乾いても「ぽんぽん」という人がいるかもしれません。

●まきこき・・・例題です。「あいつ、まきこきした」。これは「あいつ（あの人）、まきこみしている」という意味です・・・オツと、肝心の「まきこみ」を訳しております。

「まきこき」とは、人のある様・様子を表現する言葉です。それでは、どんな「様・様子」なのでしょう。

簡単に言えば、「あわてている」「急いでいる」という様子です。でも、これだけでは「まきこき」を説明しきれているとは言えません。

「まきこき」の状態になりますと、周囲が目に入らなくなります。ある事にこだわって、急いだり・あわてたりしているのです。

「まきこき」している人に、へたに声をかけますと、「うるさい！」と叱られるかもしれません。なぜなら、「オレはこんなに一生懸命になっているんだ。それがわからないのか！」と思うからです。でも、それは逆に言いますと、周囲に人は「なにもそんなに一生懸命にならなくても良いのに」と見えることになります。

つまり、例題の「あいつ、まきこきした」は「あいつ（あの人）、急いで何かをしている・あわてている・一生懸命になっている」という意味の裏には「なにもそこまでしなくても良いのに、何にこだわっているんだろう」という意味も含まれるのです。

これが転じて、行動が伴わない「まきこき」もあります。例題です。「米沢は山形より雪、多いもんな（多いよね）」というセリフに対して、「なに言ってるんだ。山形だって雪降ってら！」と反論。この反論の度合いが、一生懸命だったり、意地になったりすると「まきこきになっている」と言われます。こだわりが強い場合も、「まきこきになっている」と言われることがあります。

意地になり、あるいはこだわり、それで視野が狭くなったり、気負ったり、興奮したり、ドタバタしたり、そしてあわてふためいたり・・・「まきこき」とは、こんな感じのことを言います。

なお、「あわてている」「急いでいる」という様子だけで「まきこき」と言う人もおります。

●まげろ・・・例題です。いさばや（お魚屋さん）にて、お客さんとお店の人とのやり取りです。

客：「このざっこ、110円が～。100円にまげでけろ」

店：「やんだ、まげらん」

客：「そがなごどゆわねで、まげでけろず～」

店：「そがえにゆうごんじゃば、100円にまげでけっから」

これでは、全国の皆様には、さっぱり通じませんね。この意味は

客：「この魚、110円（も）するのか。100円に値引きしてけろ」

店：「イヤだ、値引きはできないよ」

客：「そんなこと言わないで、値引きしろよ」

店：「そんなに言うのなら、100円に値引きしてあげるから」

となります。

このように、「まげろ」とは「値引きしろ」という意味です。ですから、「まげる」は「値引きする」となりますが、実際には「まげる」とは言いません。「まげでけっから」とか「まげっから」と言います。

また、これを発展した言い方もあります。例題です。クイズをしています。問題に対して答えます。その答え、不正解にされてしまいました。これでは景品はもらえません。その時、回答者が出題者に言いました。「まげでけろず」と。これは「これくらい正解にしてくれても良いのではないか」という意味が込められているのです。つまり、この「まげろ」は「大目に見てほしい」というニュアンスなのです。

ここは私の推測ですが、「おまけ」という言葉から来ているのではないか、と思うのですが、いかがでしょう。

さらに発展して、試験などで不合格になったり、不採用になった時も「ちっとぐらい、まげでけっちえも、いいほんねがえ」（ちっとぐらい、大目に見てくれても、良いのではないか）と言うセリフが飛ぶことが・・・あるかな？

●まだなんね・・・例題です。電車に乗るため駅に来ました。ところが大雪で電車が運転見合わせです。運転再開まで駅で待つことにしたものの・・・そこで言うセリフは「やえぐり、まだなんねがえ」。これは「長い時間、待たなければならないのだろうか」という意味です。

「まだなんね」は「待たなければならない」という意味です。

例題では「まだなんねのがえ」という言い方もあります。意味は同じ「待たなければならないのだろうか」です。これに対して、「まだなんねべ〜」は「待たなければならないでしょう」「待つしかないでしょう」という意味です。

「まだなんねべが」は「待たなければならないのだろうか」「待つしかないのだろうか」という意味です。「まだなんねず〜」は「待つしかないよ」という意味です。

「まだなんねじゃあ」は「待たなければならないなくなった」という意味です。

●まちば・・・「じょうが」の項をご覧ください。

●まっちょ・・・例題です。「そろそろいぐぞ」「ちよっとまっちょ」。これは「そろそろ行くよ」「ちよっと待って」という意味です。

「まっちょ」とは「待って」という意味です。

ただ「まっちょ」は方言というより、くだけた言い方の言葉です。ですから、「待ってください」という意味にはなりませんし、先生・先輩・年上の人などに対しては言いません。

余程親しい人同士なら使っても良いでしょうが、あまりお勧めできる言い方ではありません。

●まつぼい・・・「まぶしい」という意味です。例えば・・・

朝起きますと、太陽の光（朝日）は「まつぼいな〜」。

よく晴れた日、トンネルから出ますと「まつぼいごど」。

真っ白い雪原に太陽の光が当たりますと「わあ〜、まつぼい！」。

懐中電灯を向けられて「ぱつぼいず〜」。

●まよう・・・「弁償する」という意味です。ただし、実際には自分から「まよう」とはあまり言いません。「まよえ！」（弁償しろ）と言うのです。

●まるこい・・・例題です。「この饅頭のまるこいごど」。これは「この饅頭、丸いこと！」という意味です。饅頭は大半は丸いものですが、例題では、あまりにまんまるなので「まんまるになっているよ」という意味合いが含まれます。

「まるこい」は「丸い」という意味です。「まるこい」は「丸い」ことを強調する意味もありますし、かわいらしさ・親しみやすさを増すこともあります。

NHK山形のSアナウンサーは「まるこい」顔で親しまれています。

「この赤ん坊、まるこいごど～」なんていうこともあります。

丸いはずの饅頭が丸くない場合には「この饅頭、まるこくない（ごど）」や「まるこぐね」と言います。

●まるっと・・・例題です。「そごさあんな、まるっと、よごせ」。これは「そこにあるもの、すべて（私に）よこしなさい」という意味です。

「まるっと」とは「すべて」「全部」という意味です。

「店さあったな、まるっと、なくなったじゃ」は「店にあったもの（商品）は（完売して）すべて無くなりました」という意味です。

●まんぎり・・・「完璧・完全」という意味です。米沢を代表する方言のひとつのようですが、私の周辺ではほとんど聞いたことがなく、私も子どもの頃から言った記憶はありません。だから、例題も思い付きません。一部の米沢ラーメンのお店では“まんぎりラーメン”が出されています。本格的な米沢牛が入っているので“まんぎりラーメン”と言うそうです。

●まんま・・・これはご存じの方が多いでしょう。例題です。「はらへったず。はやぐ、まんま、くわせろず（かせろず）」。「これは「お腹が空いた。早く“ご飯”食べさせてほしい」という意味です。そこには「早く、ご飯を出せ」という意味も含まれます。というわけで、「まんま」とは「ご飯」のことです。なお、「まんま」は幼児語と説明しているものもありますが、米沢では大人も使います。だから、米沢弁なのです。

この「まんま」で思い出すのが、「ねこまんま」です。私の「ねこまんま」のイメージは、ご飯にお汁（味噌汁のことを言いますが、味噌汁とは言わず、お汁と言います）をぶっかけたものです。

おかずが無くなり、残ったのが、ご飯と味噌汁。そんな時は、まんまにお汁をかけて食べるのが一番です。しかし、どういうわけか、怒られるのであります。

後に、お茶漬けの存在を知った時、なんでお茶漬けが良くで、お汁をぶっかけるのがダメなのか、非常に疑問に思ったものでした。

●みくさい・・・例題です。「そがな格好して、みくさいごど、してんなず～」。これは「そんな

格好をして、見にくいので、やめなさい」という意味ですが、これには「その格好、恥ずかしいので、やめてくれ」というニュアンスもあります。身内の人間が、変な格好・奇抜な格好をしたのでしょうか、本人とすれば、「みにくい」と思うだけでなく、世間に対して「恥ずかしい」という思いがあったのでしょうか。

「みくさい」は、直接には「みにくい」という意味ですが、例題のように「恥ずかしい」というニュアンスがあります。ですから、言葉として発する場合、大抵は身内や余程親しい人にしか言わない言葉です。

しかし、当事者へ言葉として発しなくても「みくさい」と感じる場合があります。それが、当事者とは関係ないところで、立ち話や噂話のネタになることもあります。

例えば、ゴミをポイ捨てする、タバコの吸い殻をポイ捨てする・・・という行為は「みくさい行為」と言います。これは、動作・しぐさに対する「みくさい」です。

よく見られる責任のなすり合いも「みくさい」行為です。

●みずあまし・・・梅雨時期になりますと、毎年のように伝えられるのが大雨による災害です。今年（2009年）は7月後半に入っても梅雨前線が日本列島に居座り、“中国・九州北部豪雨”では人的な被害も含めて、大きな被害が出ました。

ところで、大雨になりますと、水があふれてしまい、道路が冠水したり、住宅ですと、床上浸水や床下浸水となります。こんな時に出てくるセリフが「みずあましになった」です。

このように「みずあまし」とは、「水があふれた状態」のことを言います。「みずあまし」は大雨の時だけではありません。例えば、水道管が破裂して道路が冠水したら、「みずあましになった」と言います。

●みそっこ・・・「あぶらっこ」に近い言葉です。ただ、「あぶらっこ」は、仲間はずれにするのではなく、少しでも仲間に入れてあげようという思いから発生した言葉であるのに対して、「みそっこ」は「仲間に入れられないかもしれない」という思いも入っている言葉です。

言われた方からしますと、「あぶらっこ」の方は気になりませんが、「みそっこ」だと「仲間に入れられないかな・・・？」と誤ってしまいます。

●みだでら・・・例題です。「おれんどご、みだな」「みでね」「みだでら」。これは「私を見ましたね」「見ていません」「見たでしょう」という意味です。

「みだでら」とは「見たでしょう」という意味ですが、相手に対して見たことに念を押す意味と、相手が見たことを否定した場合に「それは違う。見たでしょう」という2つの意味があります。

こんな例もあるでしょう。「車ぶつかっどご、みだが」「みでね」。これは「交通事故を目撃したか」と尋ねられた場面です。本当は目撃しているのに、「みでね」と言ってしまう人がいるかもしれません。

●みぢつけ（道つけ）・・・例題です。朝起きます。外を見ます。大量の雪が積もっています。そこで、ひと言。「みぢつけすっか〜」。

「みぢつけ」とは豪雪地帯特有の言葉です。しかも、今の時期に紹介するのにピッタリという言葉です。

雪が積もった時、歩けるように雪かきすることを「みぢつけ」と言います。

除雪車が一気に道路の雪を取り除くことを「みぢつけ」とは言いません。手作業で玄関先から道路まで歩けるようにすることを「みぢつけ」と言います。

今では車を持っている家が多いためでしょうか、スノーダンプを使って、玄関先をきれいに除雪している家が多いように思いますが、これも「みぢつけ」のイメージとは違うように思いますが、そんな場合でも「みぢつけすっか〜」と覚悟を決めて、外に出る人もいます。

昔の「みぢつけ」はひとり歩くことができる幅の道をつくること。かんじきで雪を踏み固めて「みぢつけ」することだってあったのです。

●みっちゃぐない・・・「見たくない」という意味ですが、いろいろな場面が考えられます。

「お前の踊りなんか、みっちゃぐない」「お前の女装なんか、みっちゃぐない」という単純な場面もあれば、裁判員制度で裁判員に選ばれた人が、法廷で映し出された事件現場の様子を、あまりに残虐なので本心は「みっちゃぐない」のに見なければならぬ、という場面まであります。

ケンカ別れして、「あいつの顔なんか、みっちゃぐない」という場面もあります。

●みつぱ・・・トランプの「クラブ：♣」のことです。

●みでけろ・・・「見てください」という意味です。例えば、自分が描いた絵を「見てください」と頼んだり、PRする場合に言います。

ここから、展開してみましょう。

●みでくだっか・・・「見てくださいますか」という意味です。これは「見てください」と依頼・お願いする時に使う言葉ですが、「ますか」というニュアンスの「っか」を付けることで、単純に依頼・お願いするのではなく、尋ねる言い方になっています。

●みでくだっぺが・・・2つの意味があります。

ひとつは「見てくれるでしょうか」という意味です。あなたはAさんに「B店に行って、Cという商品があるか、見てきてほしい」と頼みます。しかし、あなたはAさんに頼んだものの、Aさんが本当に見てくれるのか心配です。その頼みが少々難しい場合も、同じように心配になります。あなたは、そのことをDさんに話します。その時、あなたは「Aさん、みでくだっぺが」（Aさん、本当に見てくれるだろうか）と言うことになります。なかなか微妙なニュアンスです。

もうひとつは「見てくださいますでしょうか」という意味です。これは、頼む方が低姿勢になってお願いする時の言い方です。これも、頼み方の微妙なニュアンスの違いを感じる表現です。

●みでくだんねが・・・「見てもらえないでしょうか」という意味です。つまり、「みでくだっか」と同じ意味ですが、「みでくだんねが」は「見てもらえない」という意味の「みでくだんね」という否定の表現を使って「でしょうか」という意味の「が」という尋ねる表現を使って、頼む言い方です。つまり、一歩引いた感じで頼む言い方なのです。言い換えますと、頼む一方で「断っても良いのです」という意味合いもその中に含まれるのです。

●みでね・・・例題です。「昨日、〇〇さんどご、みだが」「みでね」。これは「昨日、〇〇さんを見ましたか?」「見ていません」という意味です。

「みでね」は「見ていません」という意味ですが、だいたい「・・・を見ましたか?」と聞かれた時に「見ていません」と否定する時に言う言葉です。

でも、こんな例もあります。「あの映画、おもっしえがったね」「おれ、みでね」。これは「あの映画、おもしろかったね」「私、観ていません」という意味です。相手も映画を観たと思って話し掛けたら・・・という場面です。

さらに「あの映画、おもっしえがったね」「おれ、みでね」「おれどいっしょにみだでら」「みでね」は、「観ていない」と否定しているのに、話し掛けた方は「私といっしょに観たでしょう」と言っている場面です。どちらかが記憶違いしている例です。

●みね・・・「見ない」「見ません」という意味です。

例題です。「あの映画、みね」は「あの映画、見ない（見ません）」という意味です。これは、「見る意思がない」「見たくない」というニュアンスです。また、都合が悪くて「見られない」場合でも「残念ながら見られない」というよりは「他の都合の方が大事」とあるというニュアンスになります。

仮に「本当は見たいのに残念ながら見られません」という思いがあっても「みね」と言ってしまうと、相手からは「あの人は、はじめから見る気がないんだ」と思われてしまいます。いくら親しき仲でも、そして方言であっても、言い方には気を付けたいものです。

●みらんに・・・「見られません」という意味です。それで「みらんにがった」は「見られませんでした」となります。

例題です。「あの映画、みらんにじゃ」は「あの映画、見られません」という意味です。「みらんに」でも「見られません」という意味ですが、見られないことを「強調する」、「どうしても見たいけど都合で見られない」「残念ながら見られない」というニュアンスです。

例題です。「あの映画、みらんにがった」は「あの映画、見られませんでした」という意味ですが、これも「本当は見なかったのに見られなかった」というニュアンスです。

●むぐした・むぐす・むぐっちゃ・むぐる・・・代表的な例題です。小学校の教室です。授業中です。「先生、おしっこ、むぐる!」。これは「先生、おしっこ、漏れる（出る）!」という意味です。同じ場面で「先生、おしっこ、むぐっちゃ!」は「先生、おしっこ、漏れた（出た）!」という意味です。

「むぐす」「むぐる」とは「漏れる」の意味ですが、「何が漏れるか」と言えば、小さい方の「おしっこ」か、大きい方の「あれ」しかありません。ですから、子どもは「むぐる～!」と言いながら泣きます。それが、いよいよもって漏れそうになりますと「むぐすじゃ!」と言いながら泣きます。そして、ついに漏れてしまいますと「むぐっちゃ」「むぐした」と言いながら泣きます。

●むぐれる・・・「むくれる」のなまった言い方ですが、ムカッとして怒る（むかつく）という意味だけでなく、子どもが「だだこねる」「わがママをいう」という意味もあります。

ただ、この意味で使うことは、米沢でも一部の人のだけと思われまゝです。私も聞いた記憶はなんとなくある、という程度です。

●むさい・・・例題です。封筒に書類を入れる作業が1000あったとします。たくさんの数です。作業に取り掛かる前から、時間がかかることがわかっています。さあ、作業を開始します。いざ始めると、わかっているにもかかわらず、実感として、作業の終わりは遙か遠くであり、いつまで経っても、作業の終わりが見えません。そこで出てくるセリフが「い～や～、むさいごど」。

このように「むさい」とは、たくさんの作業や仕事をしていて、なかなか終わりが見えない時に、「いつまで経っても終わらない」という状況を表現する意味合いと、「まいったな～」という感情を表現するという意味合いの言葉であります。

例えば、例題の「い～や～、むさいごど」は、どちらかと言いますと状況を表現していますが、声を荒げて「むさい！」と言う場合は「まいった！」のほかに「イヤになってきた」とか「なんで、こんなにしなければならないのか」という意味合いの感情表現を含む場合もあります。

●むさずる・・・例題1です。子どもが自分から勉強を始めました。それを見たおとうさん、「雨ふんぞ！」と言います。これは「(めずらしく自分から勉強を始めるもんだから、せっかく良い天気だったのに)雨が降るぞ」と言って小馬鹿にしたのであります。

例題2です。子どもが自分から勉強を始めました。それを見たおとうさん、「勉強なんかしねで、遊びさいぐべ」と言います。おとうさんは、この時間子どもは勉強しなければならないことがわかっています。ですから、「遊びに行こう」とは思っておりません。にもかかわらず、いたずら半分で「勉強なんかしないで、遊びに行こう」とけしかけているのであります。

例題3です。子どもが自分から勉強を始めました。それを見たおとうさん、「カッチョイイ！」「カワイイ」などと言います。おとうさんは、心にもないことを言って、冷やかしました。

例題4です。子どもが自分から勉強を始めました。算数です。子どもが「 $8 + 2 = \dots$ え～と・・・10」と計算すると、おとうさんは「11 だべした」と言います。

例題でご紹介したおとうさんの行為を「むさずる」と言います。「むさずる」は子どもに対して「からかう」「小馬鹿にする」「冷やかす」「ちょっかいを出す」「いたずらをする」というような意味です。

例題1：からかわれた子どもは、ムツとするでしょう。

例題2：いたずらを言われた子どもは、おとうさんに「邪魔すんな！」と怒るでしょう。

例題3：冷やかされたり、小馬鹿にされたりした子どもは、おとうさんを軽蔑するかも。

例題4：おとうさんが「11 だべした」と言ったのに対して、子どもは「10 だごで！」あるいは「10 だず～！」と強く言い返します。

「むさずる」は代表的な方言のひとつですが、あまり良いことではありません。そこに信頼関係があり、冗談が通じるのであれば良いのですが、「むさずる」は子どもに対する行為を表す言葉です。冗談が通じる関係であるかは、親子であろうとも、考えなければなりません。

●むずがる・・・赤ちゃんが「ぐずる」ことを「むずがる」と言います。赤ちゃんは眠くなったり、ミルクが欲しくなったりしますと、機嫌が悪くなり、グズグズとなります。そうすると出て

くるセリフは（赤ちゃんに対して）「むずがんねでけろ」、（親に対して）「むずがったぞ〜」です。

そこで、私は「ベロベロバー！」とやって、赤ちゃんの機嫌を直そうとします。

ところで、調べますと、「むずがる」とは『むずかる』の誤った言い方とか「正確には『むずかる』です」と説明されており、ビックリしました。少なくとも私は「むずかる」とは言いませんでした。

最近は方言の良さが見直されています。でも、いまだに「正しい」とか「誤った」と評されることがまだあるんだということを知り、それこそ私が赤ちゃんなら「むずがる」のであります。

●むずる・・・例題です。「そごんどご、右さむずってけろ」。これは「そこ（の交差点）を、右に曲がってください」という意味です。

「むずる」は「曲がる」という意味ですが、「体を曲げる」ことを「体をむずる」とか、「道が曲がっている」ことを「道がむずっている」とは言いません。「むずる」とは「道を曲がる」ことを指します。

米沢・山形を代表する方言のひとつで、今でも盛んに使われている言葉です。

●むらす・・・例題です。小学校の教室です。授業中です。子どもが言います。「先生、〇〇ちゃん、おしっこ、むらした！」と。これは「先生、〇〇ちゃん、おしっこ、漏らした」という意味です。

「むらす」とは「漏れる」の意味ですが、「何が漏れるか」と言えば、小さい方の「おしっこ」か、大きい方の「あれ」しかありません。ただ、自分が漏らしたことを「むらした」という場合もあります。ほかの人が漏らしたことを「むらした」という場合が多いです。

●めちゃこい・・・例題です。「この饅頭、めちゃこいごど」。これは「この饅頭、ちいさいね」という意味です。さらに詳しく言いますと「この饅頭、値段の割に、ちいさいね」というニュアンスです。

「めちゃこい」とは「小さい」です。この「小さい」は、大きさに於ける「小さい」ですが、そこには「思っていたより小さい」とか「期待していたより小さい」というニュアンスであることが多いです。それで、小さいことに「驚いた」「ガッカリした」という意味合いが含まれます。

また、「めちゃこい」は「ちちゃこい」と違って、「人間の小さい時」つまり「子ども」という意味では使いません。

例題です。「このリンゴ、めちゃこいずな〜」は「このリンゴ、小さいな〜」です。

例題です。本を読むため、本を開きます。文字が小さいです。そこで言うセリフは「じ〜、めちゃこいごど！」。

●めっけ・・・例題です。子どもたちが“かくれんぼ”をしています。鬼さんがかくれていた人を見つけます。その時に言うセリフは「めっけ」。

「めっけ」は「見つけた」という意味です。

「めっけ」は方言というより、子どもたちの言葉かもしれません。（大人でも遊んでいる時に言うかも・・・） また、広く使われている言葉で、方言とは言えないかもしれませんが、辞書に

はない言葉なので取り上げました。

「めっけ」は「めっけだ」を省略した言い方です。

「めっける」は「見つける」の意味です。

●めっこ・・・例題です。「こいず、めっこまんまだ!」。これは、「これ、硬いご飯だ」という意味です。つまり、「めっこ」とは、お米がよく炊けておらず、芯が残っていて、硬い状態のことを言います。「このまんま、めっこだず」（このご飯、硬いよ）とも言います。

私などは、よく子どもの頃、めっこまんまを炊いたものです。

「めっこ」と同じ意味で「こわい」があります。ただし、私や私の周囲では、「このまんま、こわい」より「めっこまんま」と言っていました。

●めら・・・例題です。「おぼごめら」は「子どもたち」という意味です。また、「やろめら」は「野郎たち」つまり「男（の大人）たち」という意味です。

このように「めら」は「たち（達）」という意味です。

しかし、単純に「たち」か、というと、そうでもないところが、方言のおもしろさ・難しさ・奥深さです。

例えば、こんな感じです。「おぼごめら、なにがしたじゃ〜」。これは「子どもたち、何かしているな」という意味ですが、これには「何か悪いことを・・・」「何か変なことを・・・」「何かいたずらのようなことを・・・」などといったニュアンスが含まれています。

これは「やろめら」も同じです。

「こいつら」「あいつら」の「ら」に近い言葉ですが、「こいつら」は本人の前で言うことができるでしょう。しかし、「おぼごめら」「やろめら」は、本人から距離が離れている状況で使う言葉です。

このように「めら」はあまり良い言葉ではありませんので、使う時には気を付ける必要があるかも・・・です。

●めんごい・・・これはお馴染みの言葉かと思えます。「かわいい」という意味です。「めんこい」という地方もありますが、米沢では「めんごい」です。

ただし厳密に言いますと、「めんごい」とは、ただ「かわいい」という意味だけではありません。例題です。「おまえのおぼご、めんごいずな〜」。これは「おまえの子ども、おとなしくて、かわいいね」という感じです。つまり、「めんごい」とは「おとなしい」とか「おりこう」という意味合いを持った“ほめ言葉”でもあるのです。

●めんごこい・・・例題です。「おまえのおぼご、めんごこいごど」。これは「あなたの子ども（お子さん）、かわいいね（かわいいな〜）」という意味です。

「めんごこい」とは「かわいい」という意味の方言「めんごい」に「こ（い）」を入れた言葉で、意味は「めんごい」と同じです。ですから、「めんごい」と同じように、単なる「かわいい」だけでなく、「おとなしい」とか「おりこう」という意味もあります。

「めごごい」という人もいます。

例題です。子ども本人に対するセリフです。「宿題、おわったなが。めごこいずな〜」（宿題、終わったのか。お利口さんだね）、「買い物してきたんが〜。めんごこいごど」（買い物してきたんだね。お利口さんだね）

あまり良い例ではありませんが、「めんごこぐない（ごど）」とか「めんごこぐね」と言う人もいます。

●めんどうして・・・「面倒」には「わずらわしい」や「手間がかかる」という意味のほかに「世話」という意味があります。例えば、「この子を面倒みて」とは「この子を世話して」という意味です。

ところで、「面倒」に対しては「みる」と言います。また「世話」に対しては「する」と言います。ところが、少なくとも米沢では「面倒して」という言い方をすることがあります。

例えば、会社で上司が部下にハガキを近くのポストへ投函するように指示するという場面では、上司は部下にハガキを示して「めんどうして」と言います。今はこんな場面はないでしょうが。

私がイメージするのは、おばあちゃんが息子に「あの店まで行きたいので車に乗せて」という場面で、おばあちゃんの「あそこの店さいぎでーがら、めんどうして」と言うセリフです。

「めんどうして」に対して「めんどう、すっがら」とは言いません。つまり「めんどうする」とは言わないです。言うのは「めんどうして」だけです。

「めんどうして」は、基本的には「頼む」という意味ですが、自分が出来ないことを人に「頼む」場合によく言います。ここで言う「自分が出来ないこと」とは「時間がなくて出来ない」「自分がするべきではないこと」も含まれます。

●めんめ・・・幼児語で「(小さな)生き物」という意味です。例えば、小さなお子さんがしゃがんで地面を歩いているアリを見つけて、指さししながら「めんめ」。

「めんめ」を一応「(小さな)生き物」と紹介しましたが、イメージ的には「(小さな)虫」です。ただし、虫と言っても、トンボやセミ・カブトムシと言った昆虫は含みません。

逆に、蚊・ブヨなど、人を刺したり、家には入ってほしくない虫は「めんめ」と言います。

●もぎ・・・例題です。リンゴが実りました。そこで言うセリフは「もぎさいぐべ」です。

「もぎ」とは、例題の場合、実ったリンゴを木から離すこと、つまり「もぎ取ること」、「収穫すること」という意味です。「もぎ」は、動詞の「もぎ取る」「収穫する」ではなく、名詞ですので、例題の意味は「『もぎ』に行くよ」となります。

昔は、子どもたちが、近所の柿の木や栗の木などから「もぎ」方をしたものですが、現代は米沢でもそんな光景を見ることはできません。「もぎ」は農家の人も使う言葉ですが、私の印象は「収穫すること」というような大それた言葉ではないです。

参考までに、「もぎ」は「もぐ」から変化した言葉で、「もぐ」（方言ではないようです）は「もぎ取る」「ちぎり取る」という意味です。「無理にもぎ取る」というニュアンスもあります。また、不要なものを「取り除く」という意味もあります。「(不要な)木の枝をもぐ」という言い方です。

また、「もげる」（これも方言ではないようです）は、物の一部分が「ちぎれて離れ落ちてしまう」という意味です。コーヒーカップの取っ手が取れてしまえば「もげだ」となります。「もぐ」

が自分の意思での行動に対して、「もげる」は自分の思いに反すること、望まないことです。

●もぐぞ・・・例題です。「もぐぞになってだでら。かだづけろ」。これは、ある状態・状況を見て、「片付けなさい」と言っている場面です。それでは、ある状態・状況とは・・・。

「もぐぞ」とは、いろいろなものがゴジャゴジャに山積みになっている状態、いろいろなものが入り乱れて置かれている状態などのことを言います。

それで、「ひとつひとつのものが大切に扱われていないのではないか」という意味合いが含まれる言葉です。つまり、ひとつひとつのものが「雑に扱われている」という意味の「もぐぞ」でもあります。

●もぐだ・・・「もぐだ」も「もぐぞ」と同じく「雑多なもの」という意味ですが、「もぐぞ」と違うのは、「もぐだ」は「くべるもの（燃やせるもの）」であることです。具体的に「もぐだ」と言えば「木片」や「小枝」です。さらには広く「草木」「草花」も「もぐだ」という人もいます。

「もぐだ、くべんぞ（燃やすぞ）」とは、よく言ったものです。

●もごさい・・・まずは例題です。「あのおぼご、からがさもささねで、ぐじゃぐじゃになって、もごさいごど」。これは「あのお子さん、傘もさしていないので、びしょ濡れになっています。かわいそうです」という意味です。「もごさい」とは「かわいそう」という意味です。結構若いおおかあさんたちも言います。

例題のように、「もごさい」のあとに「ごど」を付けることが多いです。「ごど」を付けることで、「かわいそうだな～」とか「かわいそうですね」というニュアンスになります。「もごさいな～」という人もおられます。

●もぞ・・・「もぞ」とは「寝言」あるいは「無意識に発せられた言葉・声」という意味です。ですから、その「言葉・声」の意味は、理解できるものではありません。

寝言ならわかりますが、「無意識に発せられた言葉・声」となると、ちょっと不気味な感じもあります。誰かと話しているわけではないのに、ひとりで意味不明の言葉・声を発していますと、「あいず（あの人）、もぞかだつてんぞ（もぞ語っている）」と言います。

このように「もぞ」は「言う」ものではなく、「かだる」（語る）ものです。

●もっかえる・・・「ひっくり返る」「倒れる」という意味です。

例題です。ある人が腰掛けています。どういうわけか後ろにひっくり返りました。こんな時に言うセリフが「もっかえた」です。

「もっかえる」は、勢いよくひっくり返る・倒れるというイメージではなく、ジッとしていたモノが「ひっくり返る」「倒れる」というイメージです。あるいは「ひっくり返らないだろう」「倒れないだろう」と思われるモノが「ひっくり返る」「倒れる」というイメージです。ドッシリしているモノが「ひっくり返る」「倒れる」というイメージです。

「もっかえる」は人間だけではありません。例えば、「石灯籠、もっかえてだ」。

●もどる・・・例題です。折り紙をしています。細かい作業のすえ、鶴がきれいに折られました。それを見ていた人が折り紙をしていた人に言うセリフが「おまえ、もどつずな～」あるいは「おまえ、もどっごど～」。これは「お前は、器用だな～」という意味です。これには、ほめる意味もあり、「意外に器用だな～」という意味もあります。

「もどる」とは「器用」という意味です。具体的には、「手先が器用」という意味だけでなく、「いろんなことができる」という意味も含まれます。

モノ作りや工作ができるほか、例えば、包丁の手さばきが良いと「もどるヤツ」と評価され、「おまえ、もどっごど～」と言われます。

「もどるヤツ」とされる人は、いろんなことができたり、要領良く立ち振る舞うことができる人のことを言います。逆に「もどんねヤツだずな～」と言われるのは、「いろんなことができないから」だけでなく、「気が利かない」「応用が利かない」「言われないとできない」という場合にも言われてしまいます。

なお、不器用という意味で「てぼっこ」という言葉がありますが、「てぼっこ」とは「手先が不器用」という意味です。

●もろもろ・・・例題です。「もろもろ降ってだず～」。さて、これはどういう意味でしょうか。

「降ってだず～」は「降っているよ」「降っています」という意味です。では、何が降っているのでしょうか。これだけでは何が降っているのかわからない???・・・実はこれだけの言い方もわかるのです。「もろもろ降っている」のは「雪」です。

豪雪地域の米沢では大雪になることが頻繁にあります。それで「もろもろ降る」とは、たくさんの雪が降っている状態・状況を言います。それも、粒の大きな雪（牡丹雪）がたくさん降っている状態を「もろもろ降っている」と言います。

逆に、細かい雪（粉雪）がいくら激しく降っていても「もろもろ降っている」とは言いません。吹雪の時も言いません。静かに、しかしたくさんの牡丹雪が降っていると「もろもろ降っている」と言います。

さらに略して「もろもろだ～！」でも、雪がたくさん降っていることを表現しているセリフになります。

「もろもろ」とは、辞書では「多くのもの。いろいろのもの。さまざまのもの」と説明しています。例題としては「もろもろの説」「その他もろもろ」などが挙がっています。

「(雪が)もろもろ降る」という言い方は、その流れから来ているのかもしれませんが、しかし、「もろもろ降る」は大粒の雪が「たくさん」「いっぱい」「強く」「激しく」降っている意味であり、「いろいろ」や「さまざま」という意味ではありません。

●もんじゃぐる・・・例えば、紙を揉んでくしゃくしゃにすることを「もんじゃぐる」と言います。「もじゃくる」も方言で、米沢だけでなく、東北各地で使われる言葉ですが、私などはさらに訛って「もんじゃぐる」と言います。

例題です。「いらねぐなった紙、どうすんべ?」「もんじゃぐって、なげろ」。これは「要らなくなった紙、どうしましょう」「揉んでくしゃくしゃにして、捨てなさい」という意味です。

なお、念のため申し上げますが、「なげろ」は「捨てろ」であり、「不法投棄」につながる言葉

ではなく、「ゴミ箱に捨てなさい」という意味です。

●もんで・もんだがら・・・例題です。「明日のお茶会、用事できだもんで（用事できだもんだがら）、いがんになつたじゃ」。これは「明日のお茶会、用事ができたので、行かれなくなった」という意味です。

「・・・もんで」「・・・もんだがら」とは「・・・ので」という意味です。「・・・ので」の前には原因・要因などがあります。

●もんぼれ・・・正直、良い言葉ではありません。非常にご紹介しにくいのですが、あえて指摘されるのを恐れず、ご紹介することにします。それにしても、「もんぼれ」が横綱とは「誰が決めたの？」と申し上げたいです。

例題です。「あのじっちゃん、とうとう、もんぼっちゃやな〜」。おじいちゃんがたまたま忘れ物をします。たまたまなのに例題のセリフが飛び出すのです。これは「あのおじいちゃん、とうとうもうろくしてきたな〜」「あのおじいちゃん、とうとうボケてきたな〜」という意味合いです。これなどは、冗談半分に言っている例ですが、お年寄りが心身共に、不自由になって、動きが鈍くなった時にも「もんぼっちゃ」と言います。

「もんぼっちゃ」は動詞で、「もんぼれ」は形容詞にあたります。「もんぼれじじい」などと言います。しかしこれは、お年寄りの方をバカにした言い方です。いくら冗談であっても、良い言葉ではありません。

米沢弁には、このように、良くない言葉があります。人を差別しているのではないのですが、それに近いものを感じます。

ただ、私もガキの頃、言ったと思いますし、聞いた言葉でもあります。

そう言えば、私がガキの頃、「そがな、きたない（いやらしい）言葉、ゆうなず〜」と言われたことがあります。皆さんには、方言を話した時、叱られた経験はあるでしょうか。

「方言は温かい言葉ですね〜」とよく言いますが、すべての方言がそうではありません。

また、同じような意味で「もんぼぐれ」という言葉があることもご紹介しておきます。

●やえぐり・・・例題です。電車に乗るため駅に来ました。ところが大雪で電車が運転見合わせです。運転再開まで駅で待つことにしたものの・・・。そこで言うセリフは「やえぐり、まだなんねがえ」。これは「長い時間、待たなければならないのだろうか」という意味です。

例題です。お客さんが来ました。そのお客さん、歩いてきました。そのお客さんのセリフです。「やえぐり、とげがった」。これは「かなり遠かった」という意味ですが、隠された意味を含めると、「ここまで歩いて来られると思って、歩いてきたが、思った以上に遠かった」となります。

例題です。米沢は大雪です。たくさん雪が降り積もりました。東京の人から電話で「雪、どれくらい積もりましたか？」と聞かれました。そこで言うセリフは「やえぐり積もったず〜！」。これが「たくさん（いっぱい）積もったよ」という意味です。

「やえぐり」とは「(時間での) 長い」「(距離での) 遠い」「(量での) 多い」を表現する言葉です。「やえぐり」には「思っていた以上に」というニュアンスがあります。また、相手に対して「思っていた以上に」というニュアンスを伝える意味合いもあります。

●やがんしえ・・・「やかましい」がなまった言葉で、意味は「やかましい」「うるさい」です。ただし、大きな音に対する「やかましい」「うるさい」という意味ではなく、おせっかいに対してだったり、余計なことを言われた時に対してだったり、そういう状況で言うことが多いです。

例えば、「そがえにあまごいものばかりくって」（そんなに甘いものばかり食べて）「やがんしえ」という感じですか。

●やっこい・・・例題です。「この餅、やっこいごど」。これは「この餅、やわらかいですね」という意味です。

「やっこい」とは「やわらかい」という意味です。赤ちゃんのほっぺも「やっこい」です。

ラフランス（洋梨）を置きすぎますと「やっこくなりすぎだ」となります。こういうのは好みで、「やっこい方がいい」という人もいれば「やっこいのは好きでない」という人もいます。

●やなさって・・・「3日後」のことです。1日後は「あした」、2日後は「あさって」、そして3日後が「やなさって」であります。

ところが調べてみますと、「やなさって」は広く全国で使われている言葉のようです。そうであれば、ここで紹介するような言葉ではないです。しかし、さらに調べますと、「やなさって」は「ところ変われば意味が変わる」言葉であることがわかります。

私は「3日後」と断言しましたが、地域によっては「4日後」を指す言葉なのです。それでは、どの地域で「3日後」となり、どの地域で「4日後」になるのでしょうか。それも、調べれば調べるほどわからなくなります。すなわち、広く全国で使われている言葉ですが、標準語にはならないのです。

ですから、ここでは、あくまでも私が子どもの頃から聞いたり話したりしながら理解している意味でご紹介します。

「やなさって」とは、標準語の「しあさって」に当たる言葉です・・・と子どもの頃は理解していましたが、これまた違うことが最近になってわかりました。「しあさって」も地域によって「3日後」だったり「4日後」だったりするからです。しかも、「やなさって」と「しあさって」を同じ「3日後」にしている地域は少ない、と説明しているものがあるほどです。

ただ、考えてみますと、「やなさって」は、次第に聞かない・使わない言葉になっているように感じます。

●やらんに・・・例題です。「そいづ、うまそうだな、けろ」「やらんに」。これは「それ、美味しそうだね。ください」「あげません」という意味です。

「やらんに」は「あげない」「あげません」という意味です。

もうひとつ例題です。親が子どもに自転車乗りを教えている場面です。親が「されんべ」というと子どもは泣きながら「やらんに！」。これは「できるでしょ」「できない！」という意味です。

「やらんに」には「できない」「できません」という意味もあります。

●やろ・・・「野郎」を簡略した言い方ですが、意味は「あいつ」という感じで、親しい人や家族

に対して使う言葉です。ただし、「おまえ」とは違って、本人に向かっては言いません。

例えば、「やろ、なにがしたじゃ」と言います。これは、(あいつは)「イタズラをしているのではないか」「余計なことをしているのではないか」「迷惑になるようなことをしているのではないか」「(自分にはよくわからないが、あいつにとって何か)好きなことをしているようだ」などといったニュアンスがあります。

「やろ、逝ったじゃ」とは、余程親しい人が亡くなった時に言います。

●やろこ・・・米沢だけでなく秋田など東北の方言では、後ろに「こ」を付けますが、「やろこ」も同じで「やろ」に「こ」を付けた言い方です。例えば、「やろこ、なにがしたじゃ」と言います。

●やろだ・・・「やろ」の複数形で、「あいつたち」という感じの意味です。例えば、「やろだ、なにがしたじゃ」と言います。

●やろめら・・・「やろ」の複数形で、「あいつたち」という感じの意味です。ただ、単純に複数形になったのではありません。例えば、「やろめら、なにがしたじゃ」と言いますと、「悪さをしているのではないか」という意味合いが強くなり、「親しさ」は薄れます

●やんだ・・・例題です。おかあさん(かあちゃん)「おつかいさ、行ってけろ」。子ども「やんだ」。この意味は「買い物に行ってこい」「いやだ」。かあちゃんは自分の子どもに買い物を頼んだのですが、子どもは断ったという場面です。これで、お駄賃でもあれば、子どもの反応は違ってくるかも・・・。(この例題は「おつかい」でも出てきます)

「やんだ」・・・これは雨が「やんだ」わけではありません。「いやだ」という意味です。「やんだが～」は「いやですか?」(「いや」なのかを確かめている言葉)あるいは「やはりいやでしょうか～」、「やんだず～」は「いやだよ～」(「やんだ」より気持ちを入れて断る言い方)、「やんだべな～」は「いやだよね」(はじめから断られるのを承知の上で頼んだ場合に、頼んだ方から先に「いやだよね」と頼まれた方の心情を察したセリフ)という意味です。

●やんな・・・例題です。「おれ、マラソン、やんぞ」「やんな」。これは「私、マラソン、やるよ」「やるな(やめなさい)」という意味です。

「やんな」は「やるな」「やめなさい」という意味です。「すんな」と同じ意味です。

もうひとつ例題です。「あいづさ、ゲーム、やっかな」「やんな」。これは「あいつに、ゲームをやるかな(あげるかな)」「やるな」という意味です。

「やんな」は(モノを)「やるな」「あげるな」「くれるな」という意味です。

同じ意味での例題です。「あいづさ、ゲーム、やっていいが?」「やんねたっていい」。これは「あいつに、ゲームをやっていいですか(あげていいですか)」「あげなくてもいい」という意味です。

●やんね・・・例題です。「あいづ、めんごぐないがら、おがし、やんねべ」。これは「あいつ、かわいくない(これは「言うことをきかない」などの意味での「めんごぐない」です)ので、お

菓子、あげない」という意味です。

「やんね」は「あげない」という意味です。

もうひとつ例題です。「野球、やんべ」「やんね」。これは「野球をやろう」「やらない」という意味です。「やんね」は「しない」という意味です。

●ゆすぐる・・・例題です。屋根の雪下ろしです。ハシゴで屋根の上ります。別の人ハシゴを支えて（おさえて）します。ハシゴで上る人がハシゴを支えている人に言うセリフは「ハシゴ、ゆすぐんなよ」。これは「ハシゴ、揺らすなよ（しっかり支えてくれ）」という意味です。

「ゆすぐる」は「揺らす」という意味です。

その昔、栗の木を「ゆすぐって」栗の実を落とし、栗拾いをしたものです。

「ゆすぐる」って、広く使われている言葉とっていましたが、調べますと、そうではないようです。

●ゆってんなず・・・例題です。「あいづだぢ、ながわいじさ」「そがなごど、ゆってんなず」。これは「あの人たち、仲悪いらしいよ」「そんなこと、言わない方がよいよ」という意味です。

「ゆってんなず」は「言わない方がよいよ」「言うな」という意味です。さらには「根も葉もないこと（根拠のないこと）は言わないこと」という意味になります。

米沢では地域の人同士、互いに顔見知りです。しかし、それが時には「根も葉もない噂話」となってしまう。例題のような話（立ち話）を聞きますと、とにかくイヤになります。

●ゆんべ・・・例題です。「ゆんべ、さげのみすぎでよ、うっちゃかえらんにかった」。これは「昨夜（昨日の夜）、酒を飲み過ぎて、家（自宅）に帰ることができなかった」という意味です。

「ゆんべ」とは「昨夜・昨日の夜」という意味です。

「ゆんべ」は「ゆうべ」から訛ったとも考えられます。「ゆうべ」は漢字で書くと「夕べ」「昨夜」となります。つまり「ゆうべ」には「日が暮れるころ＝夕方」と「昨日の夜＝昨夜」の2つの意味があります。さらに、「ゆうべ」には「イベントが開かれる夜」という意味もあります。「音楽の夕べ」などという言い方をします。

しかし、米沢での「ゆんべ」は「昨夜」の意味だけです。ですから、「ゆんべ」＝「ゆうべ」ではありません。

●よくござったごど、よくござったなっし・・・米沢独特の言い方です。意味は「よく来てくださいました」であり、そこには、感謝の念、敬意する思いが込められています。

「よくござったごど」と「よくござったなっし」は、ほとんど同じですが、しいて違いを言うなら、「よくござったなっし」は、お店の人が来店したお客さんへ言う場合など、あらたまった場面で使います。「よくござったごど」は親しい人に対して使います。しかし、その逆もありますので、「よくござったごど」と「よくござったなっし」は、同じです。

●よげろ・・・「よける（避ける・除ける）」は、触れたり出会ったりしないように「位置を変える」こと、あるいは被害に遭わないように「事前に防ぐ」ことなどの意味です。それがなまって

「よげる」になります。

しかし、「よげろ」となりますと、「(邪魔だから)どいて」とか「(あぶないから)どいて」という意味になります。「よげろ」と言われた方にとっては、自身が予知していなかった危険に対して、「よげろ」と言ってもらったことで助けられた、という場合もありますが、「よげろ」と言ってきた人の一方的な都合によって「移動させられた」という場合もあります。

●よごせ・・・例題です。「そごさあんな、まるっと、よごせ」。これは「そこにあるもの、すべて(私に)よこしなさい」という意味です。

「よごせ」は「よこせ」がなまった言い方で、「よごせ」の「ご」は濁音です。(半濁音ですと「汚せ」になってしまいます)

「よこせ」について調べたところ、インターネット上では、方言なのか、標準語なのか、議論になっていましたが、「よこせ」で私が思いつくのは、自分のものなのに、実際にはほかの人の所有になっていた場合です。そこでいうセリフは「そいづ、おれのものだず。はやぐ、よごせず」(それは自分のものなので、早くよこしなさい)です。

子どもたちが、あるおもちゃで遊んでいます。ところが、あるひとりの子どもが、そのおもちゃを独り占めしています。そうなれば、周りの子どもたちは「こっちさも、よごせず」となります。

●よっぼど・・・例題です。外で遊んでいた子どもが帰ってきました。そして、ご飯を勢いよく食べました。それを見て言うセリフは「よっぼど、はらへたんだな」。これは「よほどお腹がすいたんだね」という意味です。

「よっぼど」は「よほど」がなまった言い方です。

もうひとつ例題です。「A君、おまえんどごさ、遊びにきたんだずな」「そいずは、よっぼど前のごどだず」。これは「A君、あなたの家に、遊びにきていたそうだね」「それは、よほど前のことだよ」という意味です。この場合の「よっぼど」は時間的な「よほど」「かなり」「ず〜っと」という意味です。

●よばる・・・意味は「呼ぶ」です。

「よばる」という言い方は、どこにでもありそうな気がしましたので、調べました。まず、goo 国語辞書で「呼ぶ」を調べました。

- (1) 相手に向かって声をあげて名前などを言う。「『おい』と一・ぶ」「一・んでも答えがない」
- (2) 声をあげてこちらに来させる。「助けを一・ぶ」「食事だと母が一・んでいる」
- (3) 客として招待する。まねく。「クラス会に先生を一・ぶ」
- (4) 呼び寄せる。来てもらう。「タクシーを一・ぶ」「医者を一・ぶ」「国元から親を一・ぶ」
- (5) 名づけて言う。称する。「年上の友人を兄と一・ぶ」
- (6) 引き寄せる。集める。「人気を一・ぶ」「波乱を一・ぶ」
- (7) 妻としてめとる。

この中で、私が考える米沢弁としての「よばる」に該当する意味は(1)(2)(3)(4)です。ただ、「助けをよばる」とは言わない気がします。

次に、goo 国語辞書で「よばる（呼ばる）」を調べました。

よぶ。「大声で一・る」

米沢弁としての「よばる」に比べますと、意味はかなり限定的です。

私などは「結婚式によばられました」「飲み会によばらっちゃ」「タクシーをよばる」という言い方を当たり前のようにします。

●よぴかり・・・例題です。「よぴかりばかり、してんなず」。これは「夜遊びばかり、しているなよ」という意味です。

「よぴかり」とは「夜更かし」と訳されていることが多いですが、「よぴかり」とは単に「夜遅くまで起きている」という意味だけではありません。「夜（遅く）（になっても）出歩いている」という行動を表す言葉です。このため、誤解されるかもしれませんが、例題では「夜遊び」としました。

もうひとつ例題です。「お前は、よぴかりだずな」。この「よぴかり」は、行動を指すのではなく、「お前」という人物に対する言葉です。「よぴかり」というレッテルを貼られてしまった、という例です。

●よる・・・例題です。私が知人宅に行ったとします。私は玄関の戸を開けます。「おばんです」と言います。中から家の人が出てきます。「よくござったごど」と言います。そして「玄関では寒いべがら、よってください」と言います。

つまり、この「よる」とは、靴を脱いで「あがる」こと、「家の中に入る」という意味になるのです。「あがってください」「あがっておごやい（え）」という人もおりますが、「よってください」なのです。

普通はその家の人から「よってください」と言い出すのですが、中には客の方から「込み入った用事なので、よっていいが？」と「あがることを要求する」場面もあります。

米沢では、ちょっとした用事、玄関先で済むことでも「よってください」ということが多いと、その昔聞いたことがあります。そして、同じ山形県でも（庄内地方だったでしょうか）、多少の用事では玄関で済ませ、余程な用事でないと家の中にあがらせない地域もある、と聞いたこともあります。

●らりる・・・これは、例えば、酔っぱらって、話しようとしても、言葉がスムーズに出なかったり、訳がわからないことを言ったりしている状態のことを指す言葉です。また、アナウンサーやパーソナリティが放送でかみかみだったりしていますと、「らりってんぞ」と言います。

●ルーズ・・・先日この言葉を聞いた時、すぐに「このコーナーで取り上げよう」と思いました。なぜなら、それだけ昔からしゃべらっちえいる言葉だからです。ジッチャマに「おめえは、ほんとうにルーズなヤヅだずな～」と、ズーズー弁でよく言われたものです。

でも、これは“loose”から来た言葉で、その意味は「だらしない」「いい加減」「横着」「ずぼら」から、さらに「決めたことを守らない」「手抜きしてきちんとししない」「やろうとしてもなかなか先に進まない」というような意味もあります。

よく言われるのが「時間にルーズ」です。それで登場するのが「〇〇時間」です。米沢にも「米沢時間」があります。「ルーズ」もひとつの文化なのではないでしょうか。

●ろぐすっぽ・・・例題です。「あいづは、ろぐすっぽ仕事しねもんでよ・・・」。もうひとつ例題です。「おれのおぼご、ろぐすっぽ勉強しねもんで、困ったもんだずな〜」。前者は「あの人は、まともに仕事をしないので・・・」。後者は「オレの子ども、ちゃんと勉強しないので、困ったものだよね」という意味です。

「ろぐすっぽ」とは、「まともに」「ちゃんと」「ほとんど」「しっかり」という意味です。そして、そのあとには「〇〇しない」が続きます。ですから、「ろぐすっぽ勉強する」とは言いません。

ただ「ろぐすっぽ」は、まったく「しない」という意味ではありません。例えば、「ろぐすっぽ仕事をしない」とは、まったく仕事をしないのではなく、仕事はするけど、まともにはしない、という意味です。

●わいごど・わいな・・・例題です。「あがえにいっぱいなっぱけっちえくだって、わいごど」。これは「あんなにたくさん野菜（葉物野菜）をいただき、悪いね」という意味です。

もうひとつ例題です。「わざわざ来てけっちえ、わいな」。これは「わざわざ（こちらに）来てくださって、悪いね」という意味です。

「わいごど」「わいな」は「悪いね」「悪いことしたね」という意味です。

「わいごど」「わいな」は「自分が悪いことをした」という意味合いではなく、相手に対して「感謝する」「恐縮する」「詫びる」という意味合いの言葉です。

1つ目の例題は「感謝する」の気持ちを込めた「わいごど」であり、2つ目の例題は「恐縮する」「詫びる」の気持ちを込めた「わいな」です。

「わいごど」と「わいな」の違いですが、なかなか微妙で明確には説明できませんが、「わいごど」は「感謝する」の意味合いが強いと感じます。「わいな」より「わいごど」の方が丁寧な言い方でもあります。

「わいな」は「恐縮する」「詫びる」の意味合いがやや強いです。また、どちらかと言いますと、目下の人に対して「わいな」と言います。

●わいごどなっし〜

2015年4月30日の“ままカフェサロン”にて質問された内容と、それに対する私（山口）の回答をご紹介します。

〈質問〉

お店で店員さんに頼む時「すみませんが・・・」と言ったら、ある人に「あなたは地元（置賜地方）の人じゃないね」と言われました。自分は地元（置賜）の人間です。山口さんはなんと言いますか？

〈私（山口）の回答〉

私も「すみませんが・・・」と言います。ただ、昔からの人は「わいごどなっし〜」と言っていました。この「わいごどなっし〜」にも3段活用があります。最も軽い言い方は「わいごど」、少し丁寧な言い方は「わいごどな〜」、最も丁寧な言い方は「わいごどなっし〜」です。

〈補足説明〉

「わりごどなっし〜」という人もおります。

「わいごどなっし〜」は直接の意味は「悪いですが」です。しかし、店員に頼むことは「悪いこと」ではありません。あまりにも「へりくだり」すぎ、という感じもします。でも、そこが日本人の良いところなのかもしれません。ただ、現代では「悪いですが」という言い方は誤解を招くおそれがあります。

そもそも「すみませんが・・・」も、本来なら詫びる必要がないことを考えますと、おかしい言い方ですが、それが日本人の良さです。だから「すみませんが・・・」は詫びる意味ではなく、相手を敬う気持ちの表現と考えるべきかもしれません。店員さんも人間なのです。

●わがんね・・・例題です。「このシャベロ、すぐぼっこたまって、わがんね」。これは「このスコップ、すぐに雪がくっ付いて、ダメだ」という意味です。

もうひとつ例題です。「これ、ぼっこれテレビで、わがんね」。これは「これ、調子悪いテレビで、ダメだ」という意味です。

このように「わがんね」とは、機能を果たさない物、あるいはその状態に対して評価する言葉です。この「わがんね」は人への評価でも使います。例えば、「あのおぼご、いうごどきかねくて、わがんね」（あの子ども、言うことを聞かないので、ダメ（いけない子）だ）と言います。

なお、マイナス評価の時には「わがんね」と言いますが、プラス評価の時には「わがる」とは言いません。あくまで「わがんね」だけです。

もちろん「分からない」「知らない」という意味で「わがんね」と言うこともあります。

●わせだ・わしえだ・・・例題です。「そがなごど、わせだ」。これは「そんなこと、忘れた」という意味です。

「わせだ」「わしえだ」は「忘れた」という意味です。

例題は、自分にとって都合が悪いことについて「わせだ」と言って、ごまかそうとしているニュアンスですが、「わせだ」「わしえだ」は「忘れた」場合に普通に使う言葉です。

ただし、「わせだ」「わしえだ」は「忘れた」であり、「忘れまして」ではありません。だから例えば、小学校で子どもが宿題を忘れた時、先生に対して「わせだ」と言うと、先生に叱られるかもしれません。

丁寧な言葉にはならない方言の例です。これも、方言の特徴・奥深さ・難しさ・楽しさです。

●わっさ・・・例題です。「泥わっさ、してんなず〜」。これは「泥遊び、するな（やめなさい）」という意味です。大人が小さな子どもに言ったセリフです。

「わっさ」とは「遊び」のことですが、どちらかと言いますと、小さな子どもの遊びを指すことが多いです。言い換えますと、大人にとっては「できれば、してほしくない遊び」を指します。例題の泥遊びも、すれば手は汚れますし、衣服も汚れる可能性は大です。ということは、そのあとの手洗いや洗濯が大変になるわけです。

でも、子どもは「わっさ」が大好きです。でも、現代はなかなか「わっさ」もできません。

●わにる・・・「人見知りする」という意味です。

例題です。赤ちゃんがお母さんに抱かれています。ニコニコしています。そこへ親戚のおじさん、おばさんが来ます。

おじさん「おまえのおぼご、おれさも、だがせでけんにか」

おばさん「しゃえこねえごど、すんなず。わにっから」

おじさん「いいごで。こがえにわらってだでら。だがせでけろ」

おかあさん（赤ちゃんをおじさんにわたします）

おじさん「お～、いいおぼごだずな～。ベロベロバー」

赤ちゃん（ニコニコ顔から顔色が変わり、大きな声で泣き出します）

おばさん「やっぱりわにだでら」

これを標準語にしますと

おじさん「こども、私にも、抱かせてくれないか」

おばさん「余計なこと、するな。人見知りするから」

おじさん「いいじゃないか。こんなに笑っているではないか。抱かせてくれないか」

おかあさん（赤ちゃんをおじさんにわたします）

おじさん「お～、いい子だね。ベロベロバー」

赤ちゃん（ニコニコ顔から顔色が変わり、大きな声で泣き出します）

おばさん「やはり人見知りをしたではないですか」

それにしても「わにる」という言い方はユニークです。動物のワニさんでもあるまいし、語源は何なのでしょう。

「わにる」は赤ちゃん（乳幼児）だけでなく、子どもあるいは大人でも、恥ずかしがって、何も話さなかったり、出されたお茶やお菓子を食べなかったりしますと、「わにでんなず～」と言われてしまうことがあります。

●わらわら・・・例題です。「わらわらしろ」。これは「早くしなさい」という意味です。

「わらわら」とは「早く」とか「急いで」という意味です。

「わらわら勉強して遊びさいぐべ」（早く勉強終わらせて遊びに行こう）とか「わらわらくえず」（急いで食べなさい）というように使います。

それにしても「わらわら」という言い方はおもしろいですね。急いである様が「わらわら」という表現を生んだのでしょうか。

●わんこ・・・「犬」のことです。「ワン」に「こ」をくっ付けて「わんこ」になりました。

米沢をはじめ東北では「こ」をくっ付ける言葉が多いと思います。米沢ではあまり言いませんが「馬っこ」もその例です。

米沢では犬を飼っている家庭が多くなり、「わんこ」も方言として確立しています。特に最近は、毎朝、犬の散歩をする風景が多くなってきたように感じます。

●わんこわんこ・・・例題です。「お祭りさ行ってきたが、わんこわんこだった」。これは「お祭りに行ってきたが、大混雑だった」という意味です。

「わんこわんこ」は、あまりにも大勢の人出となり、会場が「混雑・混乱」している様子表現した言葉です。

大勢の人出になりますと、大きな声を出したり、次々にいろんな人と話したり、と大変なことになります。デパートのバーゲンでは、大勢の人が殺到し、商品の奪い合いになります。そこに居る人みんながそうなります。このような光景を「わんこわんこ」と言うのです。

なお、「わんこわんこ」には「あわてている」という意味もあります。例えば、「あいづ、わんこわんこした」（あの人、あわてている）という言い方です。ただし、私は、この意味では、使ったり・聞いたりしたことはありません。

●んじゃな・・・「じゃあねえ」「またね」に当たる言葉で、別れの際に言います。「それでは、さようなら」という意味でもあります。

●んだ・・・「そうだ」という意味です。米沢では「んだ」をベースに、いくつかの言い方があります。以下にご紹介します。

●んだが・・・「そうですか？」という意味です。

●んだげんども・・・「そうだけれども」という意味です。

●んだごで・・・「そうですよ」という意味です。相手が言ったことに対して、「それは当たり前だよ」「当然だよ」という意味を込めての「そうですよ」です。

●んださ・・・「そうです」という意味です。ただし、「んださ」は「自分には関係ないけど、そうだよ」というニュアンスです。少し投げやりの雰囲気もあります。

●んだず・・・例題です。「米沢は雪、多いぞな～」「んだずな～」。これは「米沢は雪、多いよね～」「そうだよ～」という意味です。

「んだず」とは「その通り」とか「そうだ」という意味です。つまり、相手の言ったことについて、「肯定する」「同感を表す」言葉です。

「相手の言ったこと」・・・これはどちらかと言いますと、困ったこと、否定的なことを指します。つまり、「んだず」は、困ったこと、否定的なことに対して、「肯定する」「同感を表す」言葉なのです。だから、例えば「あのお店のケーキ、うまいよね～」に対して「んだず」とはあまり言いません。

●んだった・・・「そうだった（ね）」という意味です。相手から言われて思い出した時に言います。

●んだってよ・・・「そんなこと言われても」という意味です。言い訳・弁解の時に言うほか、相手の言うことに反対する時にも言います。

●んだでねえべが・・・「そうじゃないでしょうか」という意味です。

●んだなが・・・「そうなのか」という意味です。

●んだなごと・・・「そんなこと」という意味です。例題です。「んだなごととして、どうすんなよ」は「そんなことをして、どうするのですか?」という意味です。

●んだな・・・「そうだな」とか「そうだね」という意味です。

●んだなっし・・・「んだな」の丁寧な言い方で「そうですね」という意味です。

例題（1）です。

子ども：「とうちゃん、きょうはあつづがっだな〜」

父：「んだな〜」

例題（2）です。

客：「きょうは、あづがっだなっし」

店の人：「んだなっし」

こんな感じで使い分けます。

●んだべ・・・「ほだべ」と同じように「そうだろう」「そうでしょう」という意味で、相手に同意を求めたり、ある事柄について念を押す時に使います。

●んだべした・・・例題です。「あそごの中華（そば）、うまがったず」「んだべした」。これは「あの店の中華そば（ラーメン）、おいしかったよ」「そうだろう」という意味です。これをさらに解説しますと、「あの店の中華そば（ラーメン）、お前が言うとおりの、おいしかったよ」「自分が言ったとおりであったでしょう」という意味です。

「んだべした」は「そうだろう」「そうでしょう」という意味ですが、「自分が言ったとおりでだろう」「当たり前でしょう」というニュアンスを含みます。

例題です。「お前、はしりっくら、はやいずな」「んだべした」。これは「お前は、かけっこ、早いね」「そうだろう」という意味ですが、そこには「当たり前!」という自慢げなニュアンスが含まれます。

●んだもんだがら・んだもんで・・・例題です。「きのう遅刻したなよ。んだもんだがら（んだもんで）、先生におごらっちゃず」。これは「昨日（学校に）遅刻したんです。そうしたら（それで、そのため）、先生に叱られました」という意味です。

「んだもんだがら」「んだもんで」は「そうしたら」「それで」「そのため」という意味です。

例題です。「あそごに、たのまっちゃだ書類、もってったないげんども、まちがってもってったなよ。んだもんだがら（んだもんで）、まだいがんねぐなったな」。これは「あの人に頼まれていた書類を持っていったまでは良かったのですが、間違っって持って行ってしまいました。それで、もう一度行かなければならなくなりました」という意味です。

●んね・・・例題です。「おまえが！ こいず、ぼっこしたな！」「んね」。これは「お前か（ですか）！ これを壊したのは！」「違う」という意味です。

「んね」は「違う」「違います」「いいえ」という意味です。すなわち、相手が言ったことを否定する言葉です。その否定の仕方も「あっさり」「すかさず」「端的に」「強く」というニュアンスです。「んねず」（違うよ）と言いますと、さらに強く否定します。

●んめ・・・「うまい」→「うめえ」→「んめえ」→「んめ」と訛っていったもので「おいしい」という意味です。

おいしいものを食べて、ひと言「んめ」と言います。「こいず、んめ（え）ごど」は「これ、おいしいね」という意味です。

反対に「おいしくない」と思った時には「んめぐね」（おいしくない）と言います。

●んめ・・・「おまえ」→「おめえ」→「んめえ」→「んめ」と訛っていったもので「おまえ」という意味です。

「んめ、あした、かえんなが」は「お前、明日帰るのか」という意味です。

「んめ」は、親しい人・仲間内・年下などに対して使う言葉です。